

OMSを使ってみよう！ のコーナーへようこそ！



このページを見に来てくださったってことは、どこかで「MacでMIDIデータを鳴らす場合にはOMSが必要です」ということを、ホームページやマニュアルで見て知ったってことですよ。が、読んでもなんだかワカラン！という人のために、ひとつずつの設定を通してやってみましょう。

ここはわかっている！というところも出てくるかもしれませんが、それは読み飛ばしていただいてかまいません。

また、探求心旺盛な方、まあまあ知っているんだけど…という方のために、詳しい説明もしていきたいと思えます。

そして基本の設定はやっているはずなのに…という方のためにいろいろなトラブルシューティングをあげていく予定です。どうぞ、おつきあいください！

※文中に記載されている会社名および製品名は、各社の商標または登録商標です。

・OMSは株式会社カメオインタラクティブのホームページからダウンロードできます

「OMS 2.3.8」 (英語版)

Macのシステムが新しくなった時や、どうも調子が悪いといった時にはOPCODEのホームページで、最新のバージョンを常にチェックしましょう。

特に、OS9でUSB接続をする場合は、この「OMS2.3.8」でないと不具合が生じる場合があります



【1】 OMSって？

【1-1】 ソフトシンセサイザーで鳴らす？

「S-YXG50」のインストール

OMSはインストールされている

OMSのセットアップ

「XGplayer for Mac V1.0」

「MidRadio」のインストール

「MidRadio」の設定

「MidRadio」で遊ぶ！

【1-2】 外部にMIDI音源をつないでみよう

<何をつなぐの？>

(1)USB端子

(2)モデム/プリンタポート

(3)その他

【2】 OMSソフトウェアのインストール

(1)インストールする前に

(2)インストールの方法

(3)インストール後のファイル

(4)アンインストールについて

【3】『スタジオセットアップ』を作ってみよう

(1)『スタジオセットアップ』

(2)AppleTalkのこと

(3)MIDIデバイスの検索

(4)接続を確認

【4】実践『スタジオセットアップ』

[1] USB+Interface内蔵

[2] USB

[3] シリアル

[4] シリアル+Interface内蔵

[5] シリアル+MIDIカード

【1】OMSって？

【1-1】ソフトシンセサイザーで鳴らす？

<「S-YXG50」をインストールしてみよう>

<OMSはインストールされている？>

<OMSのセットアップを試してみよう>

<「XGplayer for Mac V1.0」を起動してみよう>

<「MidRadio」をインストールしてみよう！>

<「MidRadio」の設定>

<「MidRadio」で遊ぶ！>

【1-2】外部にMIDI音源をつないでみよう

<何をつなぐの？>

(1) USB端子

(2) モデムポート・プリンタポート

(3) その他

【2】OMSソフトウェアのインストール

(1) インストールする前に準備すること

(2) インストールの方法

(3) インストールされたファイルについて

(4) アンインストールについて

【3】『スタジオセットアップ』を作ってみよう

(1) 『スタジオセットアップ』って何？

(2) AppleTalkのこと

(3) MIDIデバイスの検索

(4) 接続を確認

【4】実践！『スタジオセットアップ』

<セットアップ例[1]>

USBでインターフェース内蔵音源の接続

iMac+MUシリーズ (USB端子)

<セットアップ例[2]> USBでの接続

iMac+USB MIDI Interface+MUシリーズ

<セットアップ例[3]> シリアルポートでの接続

PowerMac+Std.MIDI InterFace+シンセサイザー

<セットアップ例[4]>

シリアルポートでインターフェース内蔵音源の接続

PowerMac+MUシリーズ

<セットアップ例[5]> シリアルポート & MIDIカード
ド

PowerMac+MTP+SW1000XG+シンセサイザー・音
源等

[OMSって?→](#)



Copyright ©2000 YAMAHA CORPORATION.
All rights reserved.

【1】 OMSって？
【1-1】 ソフトシンセサイザーで鳴らす？
「S-YXG50」のインストール
OMSはインストールされている
OMSのセットアップ
「XGplayer for Mac V1.0」
「MidRadio」のインストール
「MidRadio」の設定
「MidRadio」で遊ぶ！
【1-2】 外部にMIDI音源をつないでみよう
<何をつなぐの？>
(1)USB端子
(2)モデム/プリンタポート
(3)その他
【2】 OMSソフトウェアのインストール
(1)インストールする前に
(2)インストールの方法
(3)インストール後のファイル
(4)アンインストールについて

【1】 OMSって？

OMSとはオプコード社の Open Music Systemという、Macと音楽用のソフトの間を、コンピュータの中で器用に動いてくれるソフトです。

【1-1】 ソフトシンセサイザーで鳴らす？



まずは、MidRadioをソフトシンセサイザーで鳴らそうということを中心に解説していきたいと思います。

ヤマハで提供しているS-YXG50というソフトシンセサイザーは、コンピュータの中でいろいろな楽器音を鳴らせる便利で安いものです。楽器の数も480種類と、外部音源に匹敵する数です。

動作環境は、

●対応パソコン	Apple Macintoshシリーズ
●CPU	PowerPC604 150MHz以上、PowerPC604e、またはPowerPC、G3(PowerPC750)
●メモリー	24MB以上 (32MB推奨)
●対応OS	MacOS7.6以降

となっています。残念ながら、上記以前のMacの方は外部音源が必要になりますが、[【1-2】 外部にMIDI音源をつないでみよう](#)以降を参照してくださいね。

<「S-YXG50」をインストールしてみよう>

まずは、ヤマハのソフトシンセサイザー「S-YXG50」をダウンロードして、いろいろなMIDIデータを聞いてみるころから、スタートしてみませんか。

「S-YXG50」を克服できれば、外部にシンセサイザーやXG音源を接続したときに、音が出ないということがあっても、解決法が早く見つかるかもしれません。

それから「MidRadio」を聞く場合にも「S-YXG50」が必要になります。

(S-YXG50は配布を終了しております。)

ここの体験版ダウンロードfor MACの「S-YXG50 V3.0」を選択しましょう。

あとはひたすら、Mac版をダウンロードするために選択していきましょう。

ちなみにこのファイルは8MB程あるので、根性でダウンロードしましょう!!!

【3】『スタジオ セットアップ』を 作ってみよう

(1)『スタジオセットア
ップ』

(2)AppleTalkのこと

(3)MIDIデバイスの検索

(4)接続を確認

【4】実践『スタジ オセットアップ』

[1]USB+Interface内蔵

[2]USB

[3]シリアル

[4]シリアル+Interface
内蔵

[5]シリアル+MIDIカー
ド

《注意!!!》

この体験版は90日間の試用期間を過ぎると、音が鳴らなくなります。
その場合は…

★店頭販売品（ハイブリット版[SYXG 53H：¥6,800]）をお求めください。

ダウンロードが正常に行われたら、デスクトップまたは任意の場所に「S-YXG50体験版のインストール」というアイコンができています。



S-YXG50体験版のインストール

では、あなたのハードディスクにある、このアイコンと同じものをダブルクリックしてみましょう。インストールした場所は覚えておきましょう。

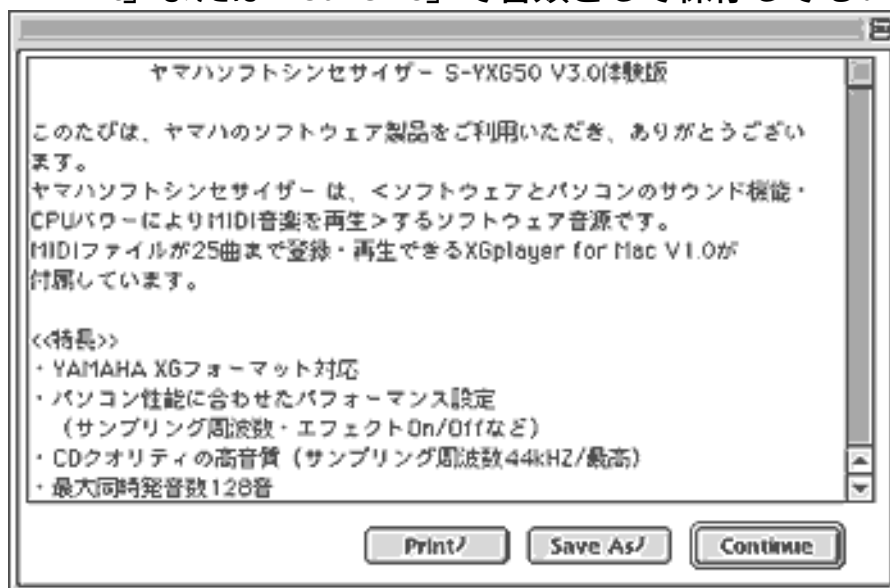
（どこにしたかわからなくなっちゃったら、Finderにいる時にファイルメニューから検索をしてみましょう。）

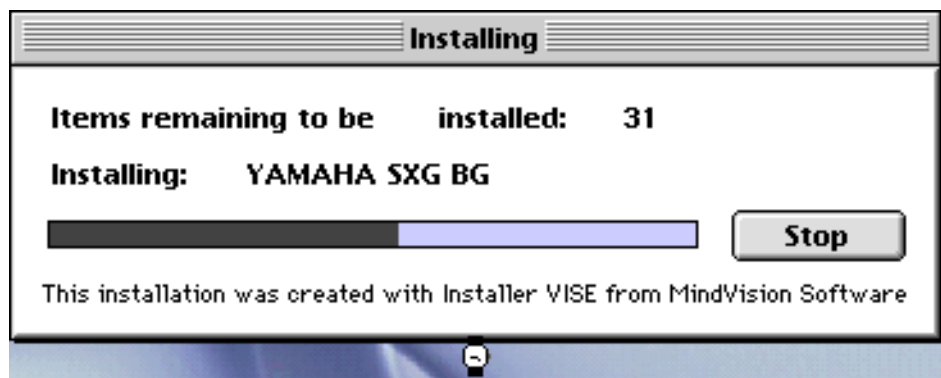
インストールの手順は次の通り…



迷わず、Continueを押しましょう。

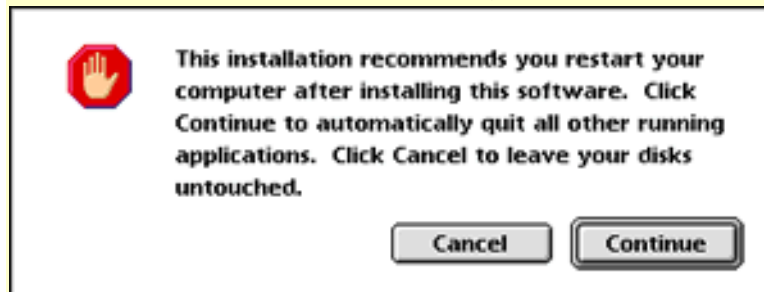
次はソフトウェアの説明です。ひととおりに読んでもいいですし、「Print」または「Save As」で書類として保存してもいいです。



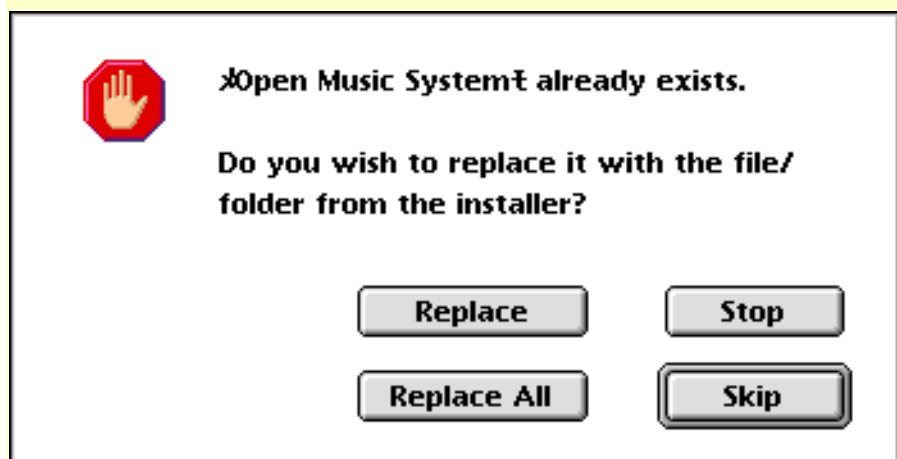


インストールが開始されています。ここはジッと待ちましょう。

たまにこんなメッセージが出る場合があります。



他のソフトウェアが裏で立ち上がっている時に出来ます。Continueを押すと、インストールが始まる前に、他のソフトウェアをちゃんと終了してくれます。ただし、保存されていないと心配ですので、不安な人は一度Cancelをクリックしてインストールを中止して確認してくださいね。



すでにOMSがインストールされている時に出来ます。古いバージョンがあ

る時にはReplace Allを選択しましょう。バージョンが分からない時は一度Stopを選択し、確認しましょう。

インストールが正常に終了すると次のメッセージが出ます。



基本的にはRestart(再起動)させないと、S-YXG50はちゃんと動作しません。他のソフトをインストールしたりもできますが、Restartしたあとで不具合が起こった時に原因を突きとめるのが難しくなるので、インストールしたあとは、再起動をするのを忘れずに！

「XGplayer for Mac」というフォルダができて、その中にアプリケーションがあります。



[←トップへ](#)

[次へ→](#)



Copyright ©2000 YAMAHA CORPORATION.
All rights reserved.

【1】OMSって？

【1-1】ソフトシンセサイザーで鳴らす？

「S-YXG50」のインストール

OMSはインストールされている

OMSのセットアップ

「XGplayer for Mac V1.0」

「MidRadio」のインストール

「MidRadio」の設定

「MidRadio」で遊ぶ！

【1-2】外部にMIDI音源をつないでみよう

<何をつなぐの？>

(1)USB端子

(2)モデム/プリンタポート

(3)その他

【2】OMSソフトウェアのインストール

(1)インストールする前に

(2)インストールの方法

(3)インストール後のファイル

(4)アンインストールについて

<OMSはインストールされている？>

さて、「S-YXG50 V3.0」をインストールすると、実はOMSも一緒にインストールされているんです。

日本語版のOMS 2.3.3Jというものです。

ソフトシンセサイザーを使うだけなら

このバージョンでよいのですが、あと

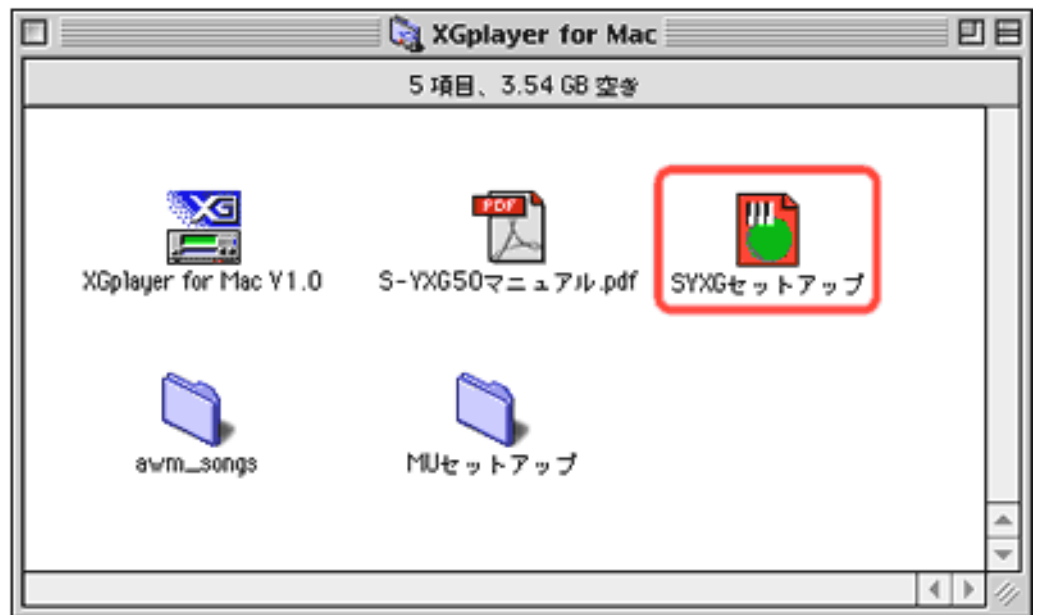
あとUSB端子を使って外部に音源を接続するような場合は、英語版のOMS 2.3.8という最新版を使った方がいいです。



OMS 2.3.8のインストール方法は、[こちら](#)で説明しています。

<OMSのセットアップを試みよう>

「XGplayer for Mac」のフォルダをダブルクリックすると、「SYXGセットアップ」というアイコンがあります。あなたのハードディスクの中の、これと同じアイコンをダブルクリックしてみましょう。



すると「OMS Setup」というソフトが立ち上がります。

【3】『スタジオセットアップ』を作ってみよう

(1)『スタジオセットアップ』

(2)AppleTalkのこと

(3)MIDIデバイスの検索

(4)接続を確認

【4】実践『スタジオセットアップ』

[1] USB+Interface内蔵

[2] USB

[3] シリアル

[4] シリアル+Interface内蔵

[5] シリアル+MIDIカード

たまにこんなメッセージが出る場合があります。



初めて立ち上げた時に出る場合があります。通常はMacintoshHDの中のXGplayer for Macの中にありますので、SYXGセットアップをクリックし、開くを選択します。

その時にこんな画面が出ることがあります。



通常はオフにしたいのですが、ネットワーク接続をしている時や、プリントアウトしたい場合などにはオンになっている必要があります。オプションをクリックすると、

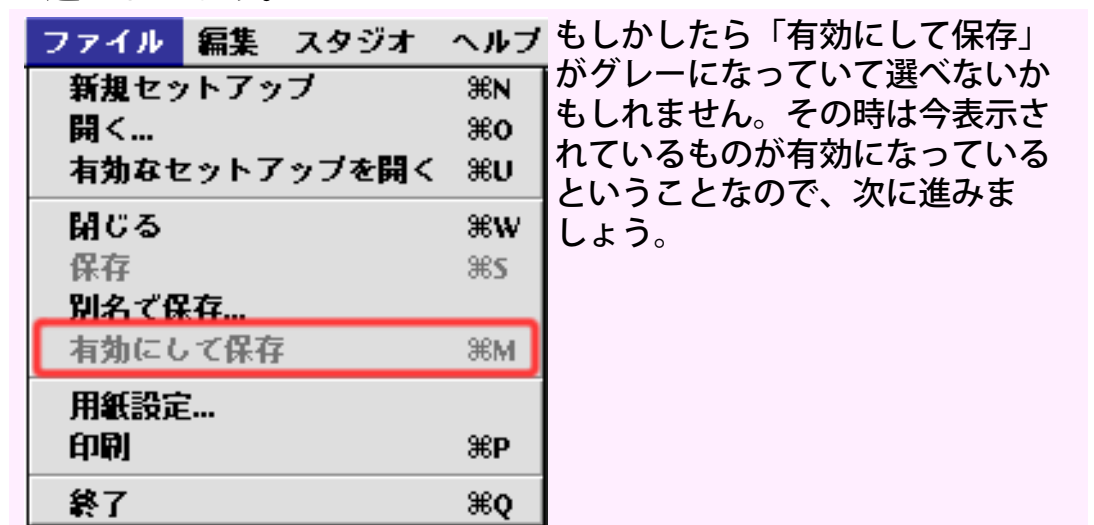


こんな画面になるので、必要に応じてチェックをしましょう。

さて、無事いろいろなメッセージをクリアしたら、こんな画面が
出ましたか？



ウィンドウタイトルの「SYXGセットアップ」という表示の、すぐ
左にひし形 (◇) がでていれば、すでに有効になっています。
もし◇がないときは「ファイル」メニューから「有効にして保存」
を選びましょう。



もしかしたら「有効にして保存」
がグレーになっていて選べないか
もしれません。その時は今表示さ
れているものが有効になっている
ということなので、次に進みま
しょう。

次に音が鳴るかどうかのテストをしてみましょう。



スタジオメニューのテストを選びます。
 そして、XG Softというアイコンのところに、マウスカーソルを移動させるとカーソルが音符の形になるので、1回クリックをしてみましょう。



“ジャン！！”という不協和音が聞こえたらテストはOKです。
 (テストが終了したら、もう一度スタジオメニューからテストを選び、チェックをはずしておきましょう。)

何も音が聞こえない時は？



サウンド

Mac本体の「サウンド」の設定もチェックしてみましょう。
 これはアップルメニューのコントロールパネルに「サウンド」というのがありますので、これを選択してみましょう。

MacのOSのバージョンによっては、「モニタ & サウンド」だったりするので、注意しましょう。

サウンドのボリュームのところで「消音」や「ミュート」にチェックがされていると、ボリュームのスライダーを上げても、音が鳴りません。



モニタ & サウンド

「ファイル」メニューの「終了」をクリックします。
 (終了してしまうとOMSが効かないのでは？と思われるかもしれませんが、見えないところでちゃんと働いていますので、ご安心を…)



Copyright ©2000 YAMAHA CORPORATION.
All rights reserved.

O M S を使ってみよう!

< 「XGplayer for Mac V1.0」 を起動してみよう >

「XGplayer for Mac V1.0」のアイコンをダブルクリックし、起動させます。初期画面はこんな感じです。



最初に添付されているMIDIファイルを読み込んでみましょう。右下のボタンを押すと、ファイルを読み込むウィンドウが開きます。



適当な曲を選択して、「リストに追加」し、

【1】 OMSって？

【1-1】 ソフトシンセサイザーで鳴らす？

「S-YXG50」のインストール

OMSはインストールされている

OMSのセットアップ

「XGplayer for Mac V1.0」

「MidRadio」のインストール

「MidRadio」の設定

「MidRadio」で遊ぶ！

【1-2】 外部にMIDI音源をつないでみよう

<何をつなぐの？>

(1)USB端子

(2)モデム/プリンタポート

(3)その他

【2】 OMSソフトウェアのインストール

(1)インストールする前に

(2)インストールの方法

(3)インストール後のファイル

(4)アンインストールについて

【3】『スタジオセットアップ』を作ってみよう

(1)『スタジオセットアップ』

(2)AppleTalkのこと

(3)MIDIデバイスの検索

(4)接続を確認

【4】実践『スタジオセットアップ』

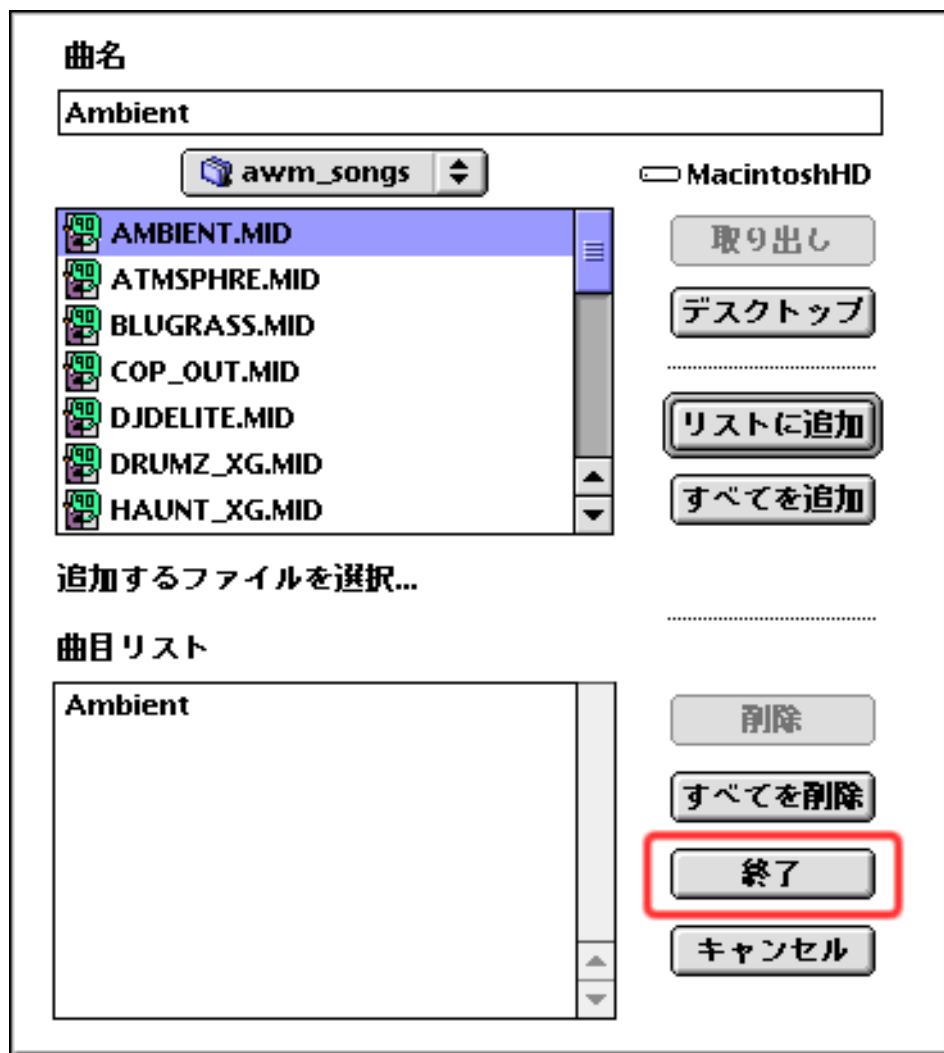
[1] USB+Interface内蔵

[2] USB

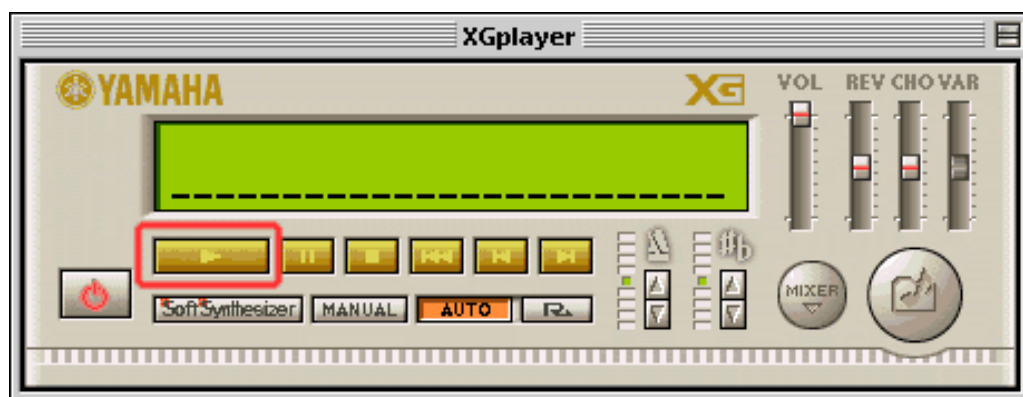
[3] シリアル

[4] シリアル+Interface内蔵

[5] シリアル+MIDIカード

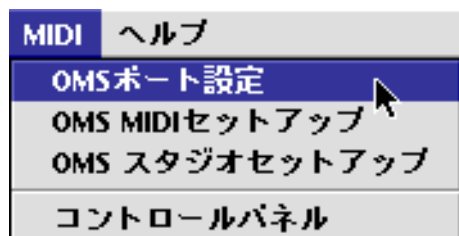


「終了」を押します。
再生ボタンを押してみましよう。



あれ？音が鳴らない…？
あっ、そうでした！XGplayerでのMIDIの設定をしていませんでした。

MIDIメニューから「OMSポート設定」を選択しましょう。



とりあえず、Aポートのメニューから「YAMAHA SXG Driver」を選び、さらに右にあるチェックボックスをチェックされている状態にして、「OK」を押します。



ここで「YAMAHA SXG Driver」がリストに表示されない時は前項のOMSのセットアップがうまくいっていない可能性があります。XGplayerのMIDIメニューからでもOMS Setupのソフトは立ち上がります。MIDIメニューからOMS スタジオセットアップを選択しましょう。

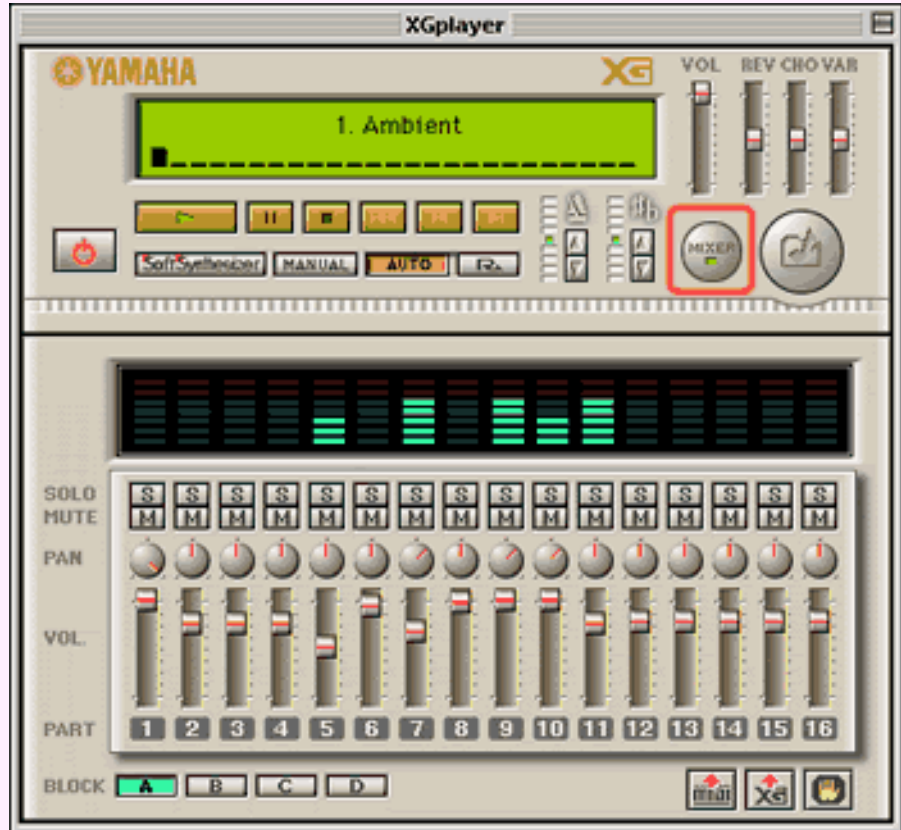
初めての時は「OMS Setupを探してください。」というメッセージが出て、ファイルの選択画面になることがあります。

Easy Installした場合は、デスクトップにある「MacintoshHD」（名称を変更している場合はその名前）の中の「Opcode」フォルダの中の「OMSアプリケーション」を開くと「OMS Setup」が見つかります。特定のフォルダにOMSをインストールした場合はデスクトップから順々にフォルダを開いていくと「OMS Setup」があります。

そして「有効にして保存」をチェックしてみましょう。SYXGセットアップというウィンドウのタイトルの左に◇（ひし形）表示されていることが目印です。

セットアップをもう一度確認したら、再生ボタンを押してみましょう。音楽がMac本体のスピーカーから流れてくれば、OKです。

まだ、鳴らない時は？



曲が再生されている時に「XGplayer」のMIXERボタンを押してみま
しょう。
ボリュームレベルがピコピコ光っていれば、曲は再生されている状態
なので、あとはMac本体の「サウンド」の設定もチェックしてみま
しょう。



サウンド

これはアップルメニューのコントロールパネルに「サウ
ンド」というのがありますので、これを選択してみま
しょう。

MacのOSのバージョンによっては、「モニタ & サ
ウンド」だったりするので、注意しましょう。

サウンドのボリュームのところで「消音」や
「ミュート」にチェックがされていると、ボリュームのスライダーを
上げても、音が鳴りません。設定ができたなら、ふたたび「XGplayer」
に戻り、再生ボタンを押してみましよう。



モニタ & サウンド

それでは、もう一歩進んで、【MidRadio】を聞いてみましよう
か。

[←前へ](#)

[次へ→](#)



< 「MidRadio」をインストールしてみよう! >

【MidRadio】はブラウザと同じように、インターネットに接続して曲を聴くことができます。気に入ったMIDIデータはMidRadioのホームページから購入することもできます。

なにはともあれ、MidRadioを聞くためのソフトをダウンロードしてみましょう。

<http://www.midradio.ne.jp/download.html>

ここからMac用のものをダウンロードしてみましょう。ダウンロードが正常に行われたら、デスクトップまたは任意の場所に

「MidRadio Installer(J)」というアイコンができます。



MidRadio Installer(J) または MidRadio Installer(J)

アイコンの絵は、Macのシステムによって違う場合があります。

では、あなたのハードディスクにある、このアイコンと同じものをダブルクリックしてみましょう。

インストールした場所は覚えておきましょう。

(どこにしたかわからなくなっちゃったら、Finderにいる時にファイルメニューから検索をしてみましょう。)



ここは迷わず「続ける」です。

【1】 OMSって？

【1-1】 ソフトシンセサイザーで鳴らす？

「S-YXG50」のインストール

OMSはインストールされている

OMSのセットアップ

「XGplayer for Mac V1.0」

「MidRadio」のインストール

「MidRadio」の設定

「MidRadio」で遊ぶ！

【1-2】 外部にMIDI音源をつないでみよう

<何をつなぐの？>

(1)USB端子

(2)モデム/プリンタポート

(3)その他

【2】 OMSソフトウェアのインストール

(1)インストールする前に

(2)インストールの方法

(3)インストール後のファイル

(4)アンインストールについて

【3】『スタジオ セットアップ』を 作ってみよう

(1)『スタジオセットアッ
プ』

(2)AppleTalkのこと

(3)MIDIデバイスの検索

(4)接続を確認

【4】実践『スタジ オセットアップ』

[1] USB+Interface内蔵

[2] USB

[3] シリアル

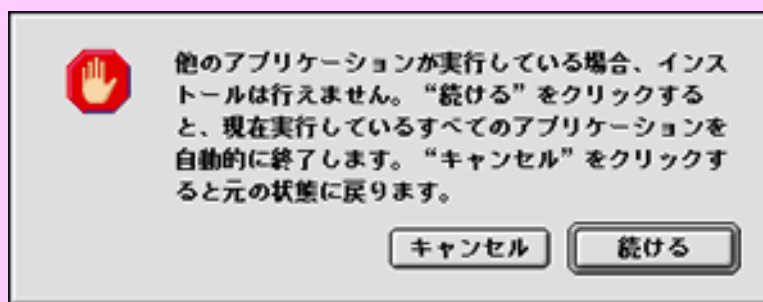
[4] シリアル+Interface
内蔵

[5] シリアル+MIDIカー
ド



MidRadioには簡易インストールしかありませんので、右下の「インストール」を押しましょう。

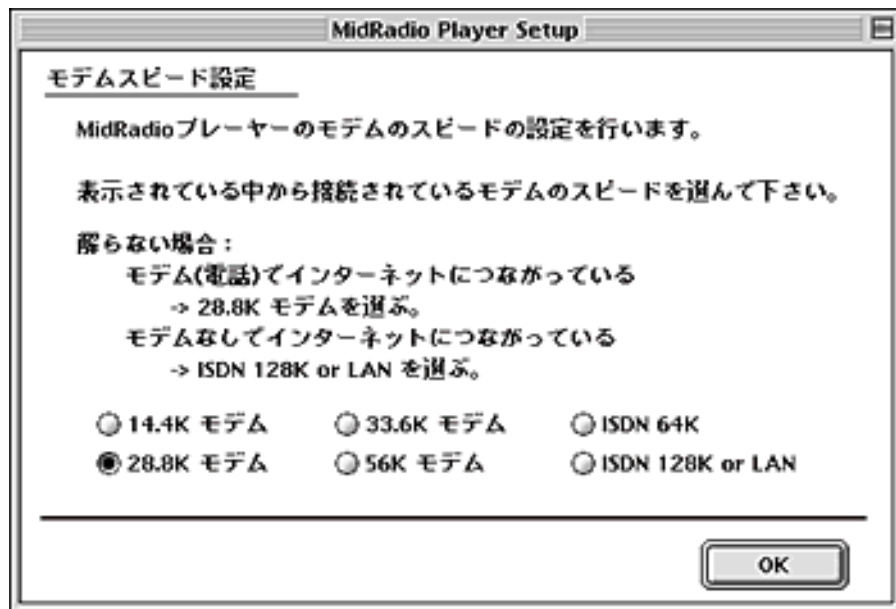
たまにこんなメッセージが出る場合があります。



他のソフトウェアが裏で立ち上がっている時に出来ます。そう、このページをブラウザで見ている時は、メッセージが出てしまうんですよ。残念です…

「続ける」をクリックすると、他のアプリケーションでの保存をする画面になります。

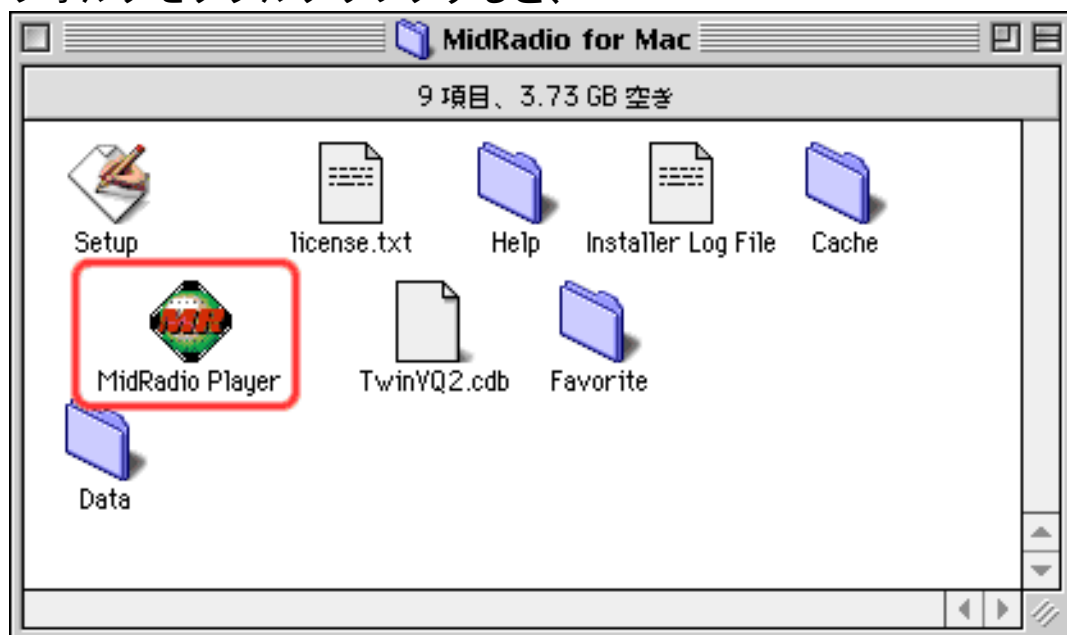
インストールが終わると、次にモデムスピード設定の画面になります。画面の説明に従って、通信速度のボタンを選び「OK」をクリックしましょう。



「MidRadio for Mac」というフォルダができて、その中にアプリケーションがあります。



フォルダをダブルクリックすると、



早速「MidRadio Player」をダブルクリックして立ち上げてみましょう。

< 「MidRadio」 の設定 >

MIDIデータを扱うソフトには、ほとんどのものに音をどこから出すかという設定をすることがあります。ソフトによって設定画面が違うので、始めはちょっととまどいますが、ひとつずつ覚えていきましょう。

初期画面はこんな画面です。

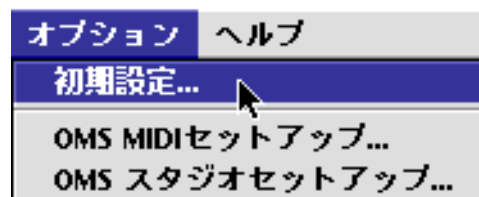


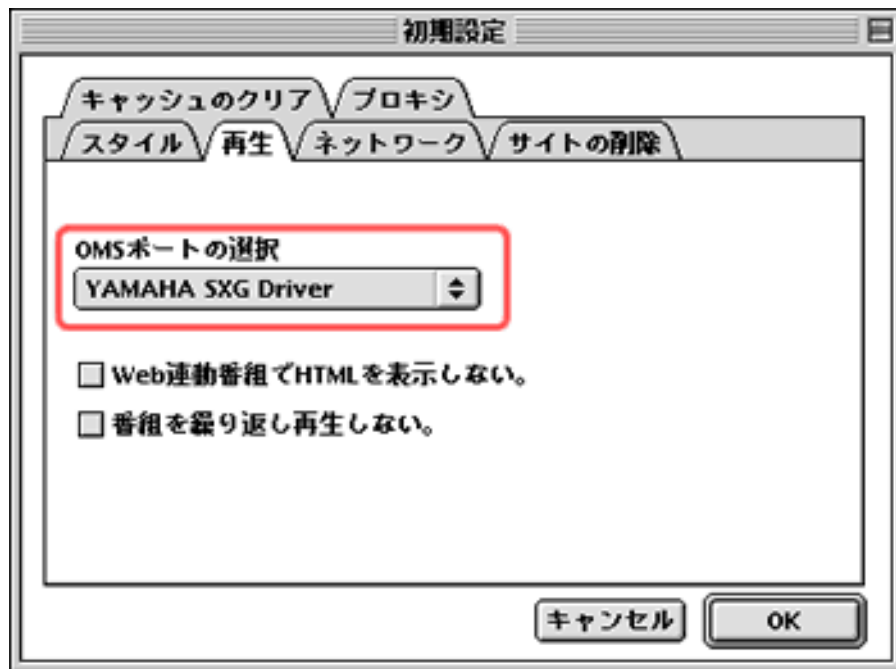
こんなメッセージが出ることがあります。



E-mailアドレスをヤマハのホームページで登録しておくと、最新情報をメールでお知らせしてもらえます。

まずは「オプション」メニューから「初期設定」を選択しましょう。





「スタイル」「再生」「ネットワーク」など、いろいろなタグがありますが、この中から「再生」を選択してください。

ここに「OVSポートの選択」という項目がありますね。なにもしていない時は「選択されていません」になっています。このメニューをクリックすると、リストが出てくるので「YAMAHA SXG Driver」というのを選びましょう。

- リストの中に「YAMAHA SXG Driver」がない場合は、XGplayerの時と同様です。初期設定はキャンセルをクリックします。そして同じく「オプション」メニューの「OVS スタジオセットアップ」を選択しましょう。すると「OVS setup」が自動的に立ち上がります。

[←前へ](#)

[次へ→](#)



O M S を使ってみよう!

< 「MidRadio」で遊ぶ! >

さて、設定も終わったので、早速「MidRadio」で遊んでみましょう。



パネルの「SITE:」の右側でクリックすると、「**ウェブリンク総合サイト**」や「**MidRadio Japan**」「**Local Sample Site**」というのが表示されます。



「**ウェブリンク総合サイト**」というのはブラウザ上でホームページが自動的に開き、曲に合わせてページが変わっていきます。曲はMidRadioで鳴ります。

「**MidRadio Japan**」はジャンル別にいろいろなMidiの曲が視聴できます。その曲ごとの説明も聞けるので、便利です。

ここではあくまでOMSの設定ができることが大事なので、インターネット接続をしないで音の確認をするため、「**Local Sample Site**」を選択しましょう。

【1】OMSって?

【1-1】ソフトシンセサイザーで鳴らす?

「S-YXG50」のインストール

OMSはインストールされている

OMSのセットアップ

「XGplayer for Mac V1.0」

「MidRadio」のインストール

「MidRadio」の設定

「MidRadio」で遊ぶ!

【1-2】外部にMIDI音源をつないでみよう

<何をつなぐの?>

(1)USB端子

(2)モデム/プリンタポート

(3)その他

【2】OMSソフトウェアのインストール

(1)インストールする前に

(2)インストールの方法

(3)インストール後のファイル

(4)アンインストールについて

【3】『スタジオセットアップ』を作ってみよう

(1)『スタジオセットアップ』

(2)AppleTalkのこと

(3)MIDIデバイスの検索

(4)接続を確認

【4】実践『スタジオセットアップ』

[1] USB+Interface内蔵

[2] USB

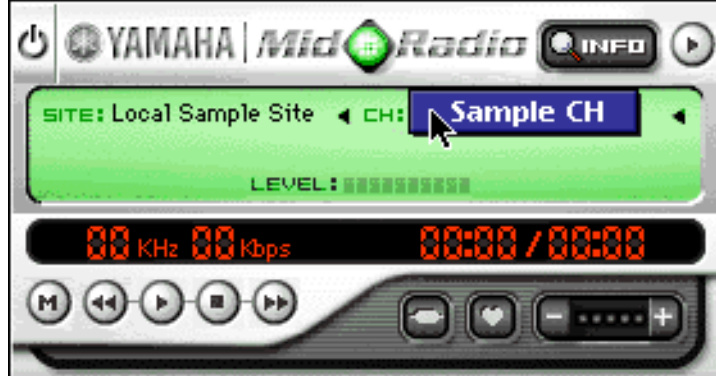
[3] シリアル

[4] シリアル+Interface内蔵

[5] シリアル+MIDIカード



「SITE:」の右の「CH:」のところをクリックすると、現在オンエアされている放送局が表示されます。

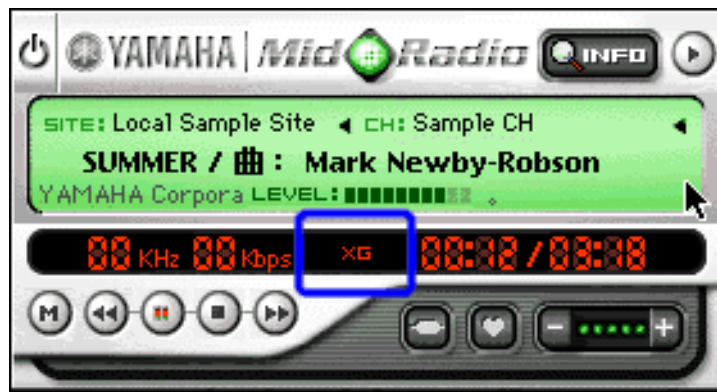


これはサンプルなので「Sample CH」しかありませんが、他のサイトでは、ここに続々新番組がリストされるので、こまめにチェックを！

MidRadioのパネル上にKHzというのがありますが、ここに、22とか44とか11とか出ている時は、ナレーションやCDの音がそのまま流れていることになります。



それから、XGの表示があるときはMIDIデータが流れてきていて、S-YXG50のソフトシンセサイザーが鳴っていることになります。



まあ、理屈はともかくいろいろな番組があるので、聞いて、見てください。

パネル上で番組を選ぶ方法と、ファイルメニューから「サイト選択」「チャンネル選択」をする方法は同じです。



サイトが選ばれていないとチャンネル選択はグレーになっています。

さらにファイルメニューには「曲選択」というメニューもあるので、1曲だけを選んで聞くということもできるようになっています。



サイト選択の「MidRadio Japan」は現在発売されているXG対応のMIDIソングライブラリーから、またはテーマを絞ったの番組が用意されています。

懐かしい曲や最新ヒット曲まで、いろいろ楽しめますね。

気に入った曲はMidRadioのホームページで買うこともできます。

他にもいろいろ機能はありますが、もっと詳しい使い方を知りたい場合は、MidRadioのヘルプメニューから「MidRadio ヘルプ」を選択すると、ブラウザ上で詳しい説明を見ることができます。

←前へ

次へ→



【1】 OMSって？
【1-1】 ソフトシンセサイザーで鳴らす？
「S-YXG50」のインストール
OMSはインストールされている
OMSのセットアップ
「XGplayer for Mac V1.0」
「MidRadio」のインストール
「MidRadio」の設定
「MidRadio」で遊ぶ！
【1-2】 外部にMIDI音源をつないでみよう
<何をつなぐの？>
(1)USB端子
(2)モデム/プリンタポート
(3)その他
【2】 OMSソフトウェアのインストール
(1)インストールする前に
(2)インストールの方法
(3)インストール後のファイル
(4)アンインストールについて

【1-2】 外部にMIDI音源をつないでみよう

ここまでのところで、Mac本体で音を鳴らして楽しむところまで、できたと思います。でも、MIDIの世界はもっともっと広いのです。

ソフトシンセサイザーもどんどん音がよくなってきたし、Macの性能も2,3年前に比べて格段に早くなったので、Macに負担をかけることも少なくなってきました。

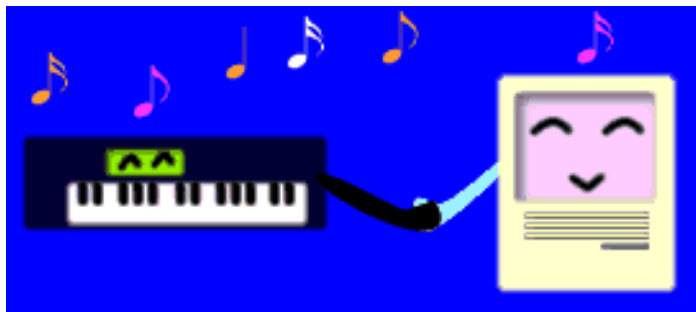
また、Macには始めからQuickTime音色というのも入っていて、現在のQuickTime4.1というバージョンでは、何百種類かの楽器音が鳴らせます。
 (※これはXG音源とはちょっと違いますが、基本の128音色については互換性があります。)

ただ、ちょっと古いMac（いわゆるPowerPCといわれる前のマック）で、ソフトシンセサイザーを使うのは、負担をかけちゃうのでちょっとかわいそう…



でも、MIDIインターフェースやMIDI音源をMacとつなげることで、音楽は楽しめます！

MIDI端子が付いている、エレクトーンやポータブルキーボードなどを遊ばせておくのは、もったいないと思いませんか？ もちろん、音楽をただ鳴らすだけではなく、自分で作曲したり編曲したりするのもできますよ。



<何をつなぐの？>

例えば

- ・ シンセサイザーを人からもらったので、これをMacに接続してみたい

【3】『スタジオセットアップ』を作ってみよう

(1)『スタジオセットアップ』

(2)AppleTalkのこと

(3)MIDIデバイスの検索

(4)接続を確認

【4】実践『スタジオセットアップ』

[1] USB+Interface内蔵

[2] USB

[3] シリアル

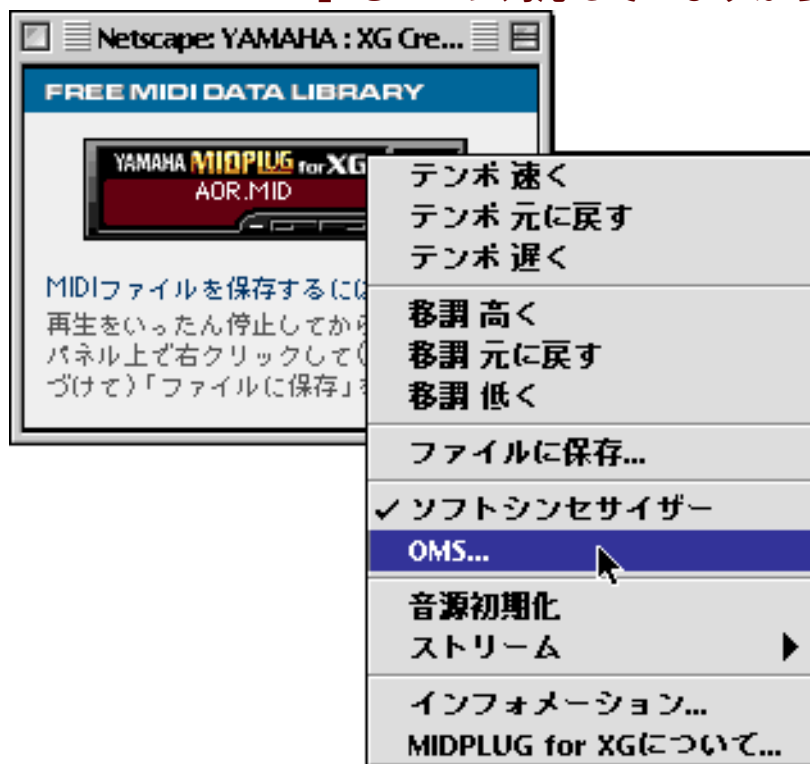
[4] シリアル+Interface内蔵

[5] シリアル+MIDIカード

- ・ エレクトーンに接続してみたい
 - ・ MID PLUG for XGを使ったホームページをソフトシンセではなく、中古で買ったMU50で鳴らしてみたい
- など、いろいろな使い方をしたい人がいると思います。

【MID PLUG for XG】はソフトシンセサイザーを内蔵していますが、ブラウザ（NetscapeやInternetExplorer）上でしか聞くことができません。ヤマハのホームページを始め、個人でも「MID PLUG for XG」を使って、MIDIで作った曲をBGMにしたホームページを開設できる気軽さが、どんどん広まっています。

「MID PLUG for XG」もOMSに対応していますから、



曲が停止しているときに、パネル上でクリックし、OMSを選択すれば、外部音源で聞くことができます。

[←前へ](#)

[次へ→](#)



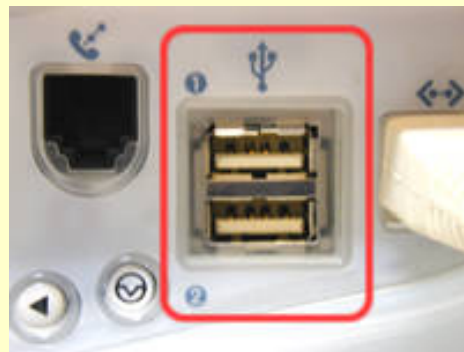
それでは、まずMacに付いている端子を確認しておきましょう。

(1) USB端子

最近のiMacやMacintosh G3(ブルー) G4、PowerBookG3などには、従来のモデムポートやプリンターポートの代わりにUSB端子というのが付いていて、プリンターやフロッピーディスク、MOなどが接続できるようになっています。

USB端子の形には2種類あって、Mac本体に付いている長方形の端子と、MIDIインターフェースや、MOなどには長方形、または正方形に近い形のものがあります。たいていはインターフェース等にケーブルが付属していると思いますが、買う場合は型が合うものを選ぶように注意してくださいね。

Mac本体のUSB端子



音源・インターフェース側のUSB端子



[MIDIインターフェースを使って接続]

ヤマハからは、「UX256」というUSB-MIDIに変換するインターフェースが発売されています。MIDIのINとOUTがそれぞれ6ポートずつ付いているので、拡張性にも優れている逸品です。

【1】 OMSって？
【1-1】 ソフトシンセサイザーで鳴らす？
「S-YXG50」のインストール
OMSはインストールされている
OMSのセットアップ
「XGplayer for Mac V1.0」
「MidRadio」のインストール
「MidRadio」の設定
「MidRadio」で遊ぶ！
【1-2】 外部にMIDI音源をつないでみよう
<何をつなぐの？>
(1)USB端子
(2)モデム/プリンターポート
(3)その他
【2】 OMSソフトウェアのインストール
(1)インストールする前に
(2)インストールの方法
(3)インストール後のファイル
(4)アンインストールについて

【3】『スタジオセットアップ』を作ってみよう

(1)『スタジオセットアップ』

(2)AppleTalkのこと

(3)MIDIデバイスの検索

(4)接続を確認

【4】実践『スタジオセットアップ』

[1] USB+Interface内蔵

[2] USB

[3] シリアル

[4] シリアル+Interface内蔵

[5] シリアル+MIDIカード

前面



背面



詳しくは、こちら

<http://www.yamaha.co.jp/product/syndtm/p/dtm/ux256/>

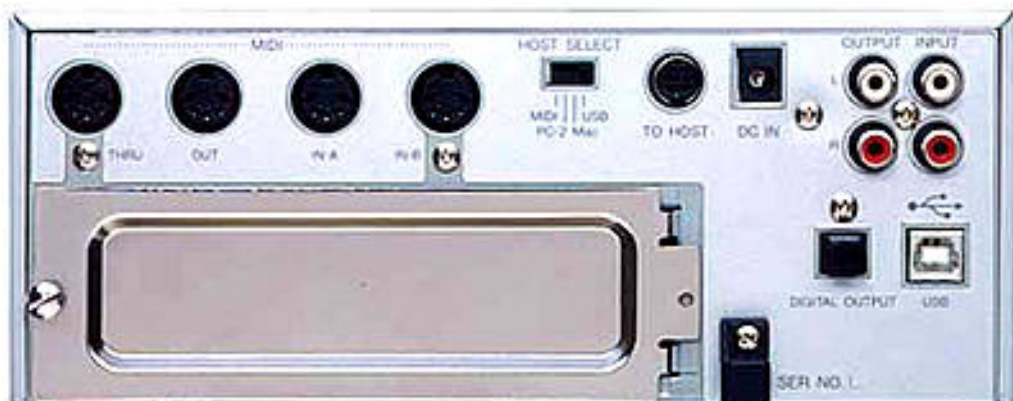
[MIDIインターフェイスが内蔵されている楽器に直接接続]

MU2000,1000には音源本体にUSB端子があり、Macと1本のUSBケーブルで接続できるようになっています。パッケージ商品には、シーケンサーソフトやOMSなどのソフトも同梱されているので、インストールが簡単！

前面 (MU1000)



背面



詳しくはこちら

<http://www.yamaha.co.jp/product/syndtm/p/dtm/mu20mu10/>

←前へ

次へ→



Copyright ©2000 YAMAHA CORPORATION.
All rights reserved.

【1】 OMSって？
【1-1】 ソフトシンセサイザーで鳴らす？
「S-YXG50」のインストール
OMSはインストールされている
OMSのセットアップ
「XGplayer for Mac V1.0」
「MidRadio」のインストール
「MidRadio」の設定
「MidRadio」で遊ぶ！
【1-2】 外部にMIDI音源をつないでみよう
<何をつなぐの？>
(1)USB端子
(2)モデム/プリンタポート
(3)その他
【2】 OMSソフトウェアのインストール
(1)インストールする前に
(2)インストールの方法
(3)インストール後のファイル
(4)アンインストールについて

(2) モデムポート、プリンタポート

シリアルポートは、プリンタと電話（モデム）のマークの端子です。シリアルポートから接続して、MIDI端子からMIDIケーブルを、他のMIDI音源やシンセサイザーに接続します。

ToHost端子とシリアルポートを接続するには、シリアルケーブルを使います。これは両側が同じ形なので、迷う必要はありません。これから買う場合は、ヤマハの「CCJ-MAC(¥2,000)」をお求めください。

Mac本体のシリアルポート

デスクトップに付いている端子



PowerBookに付いている端子



モデムポートとプリンタポートが兼用になっています。OMSや他のソフトウェアでは通常モデムポートとして設定します。

これもまた、MIDIインターフェース経由のものと内蔵型のものがあります。

[MIDIインターフェースを使って接続]

ヤマハからは残念ながら単体のシリアルMIDIインターフェースは発売されていません。

Mark Of The Unicorn、OPCODE、midiman（一例）などから発売されています。

[MIDIインターフェースが内蔵されている楽器に直接接続]

XG音源には、ToHost端子というものが付いており、MacやDOS/Vの切り換えスイッチがあります。これもシリアルケーブル1本で接続できるため、とてもシンプルといえます。

MIDIインターフェースを内蔵している音源側の ToHost端子



★MU128以前のXG音源に付いているToHost端子です。

プリンタ・モデムポートと直接つなぐ時は、HOST SELECTを1番右の「Mac」にしておきましょう。

【3】『スタジオ セットアップ』を 作ってみよう

(1)『スタジオセットアッ
プ』

(2)AppleTalkのこと

(3)MIDIデバイスの検索

(4)接続を確認

【4】実践『スタジ オセットアップ』

[1]USB+Interface内蔵

[2]USB

[3]シリアル

[4]シリアル+Interface
内蔵

[5]シリアル+MIDIカー
ド



MU2000,MU1000などUSB対応に
なったもののToHost端子です。

プリンタ・モデムポートと直接つな
ぐ時は、HOST SELECTを右から2番
目の「Mac」にしておきましょう。

★MU128以前のXG音源：MU100,MU80,MU50など、CBX-K1XG、
QY70、エレクトーン[EL900以降]、ポータトーン[PSR-540など]

(3) その他

Quick Time、ソフトシンセサイザー (S-YXG50) など、Macの本体
で音を鳴らすもの。バーチャルシンセともいいます。

SW1000XGのようなボードタイプのは、Macの中にバコッと差
し込みます。MIDIカードという言い方をすることもあります。

また、USBからシリアルケーブル（モデム、プリンタポート）に変
換するような、アダプタも発売されていますので（転送スピードが
ちょっと心配ですが）、使えるかも？

←前へ

次へ→



Copyright ©2000 YAMAHA CORPORATION.
All rights reserved.

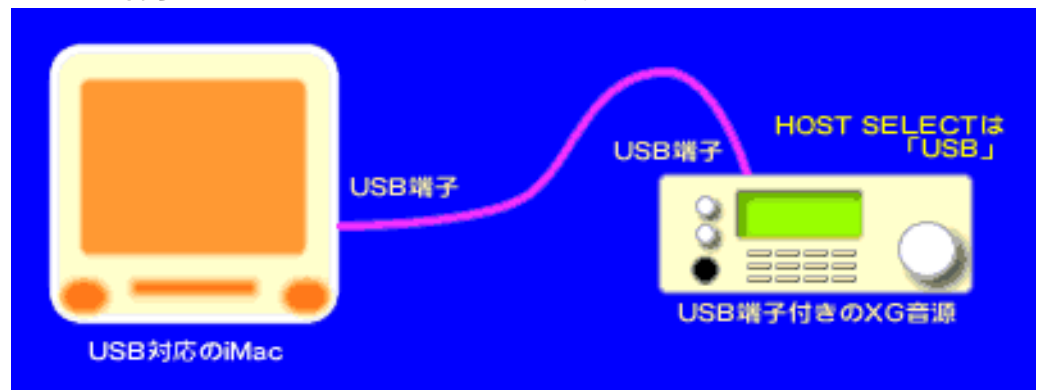
【1】 OMSって？
【1-1】 ソフトシンセサイザーで鳴らす？
「S-YXG50」のインストール
OMSはインストールされている
OMSのセットアップ
「XGplayer for Mac V1.0」
「MidRadio」のインストール
「MidRadio」の設定
「MidRadio」で遊ぶ！
【1-2】 外部にMIDI音源をつないでみよう
<何をつなぐの？>
(1)USB端子
(2)モデム/プリンタポート
(3)その他
【2】 OMSソフトウェアのインストール
(1)インストールする前に
(2)インストールの方法
(3)インストール後のファイル
(4)アンインストールについて

【2】 OMSソフトウェアのインストールをしてみよう

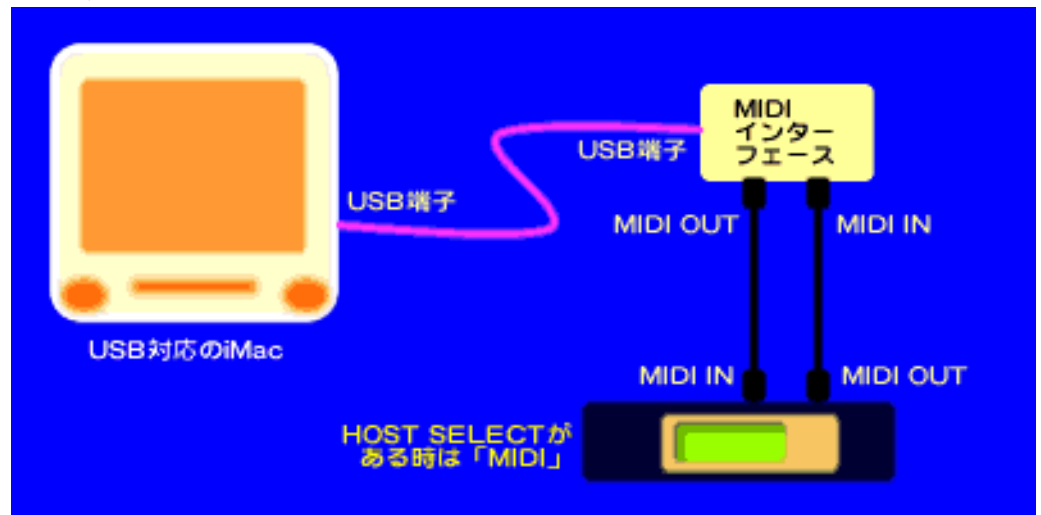
さて、まえおきがすごく長くなってしまったんですけど、ご自分のMacに何をつなげるかはとても重要です。OMSのセットアップの中でも、ポートの選択や機材の選択などがありますので、きっと迷わずに済みますよ。

(1)インストールする前に準備すること 1.MIDIインターフェースをMacに接続

USB端子で接続する場合は、MacのUSB端子とMIDIインターフェースのUSB端子をケーブルでつなぎます。



MIDIインターフェース内蔵の音源も同じく本体のUSB端子につなぎます。



また、少し前のMacでは、モデムポート、またはプリンターポートと接続します。背面にあるので、差しにくいですが、どちらのポートなのかを覚えておいてくださいね。

【3】『スタジオセットアップ』を作ってみよう

(1)『スタジオセットアップ』

(2)AppleTalkのこと

(3)MIDIデバイスの検索

(4)接続を確認

【4】実践『スタジオセットアップ』

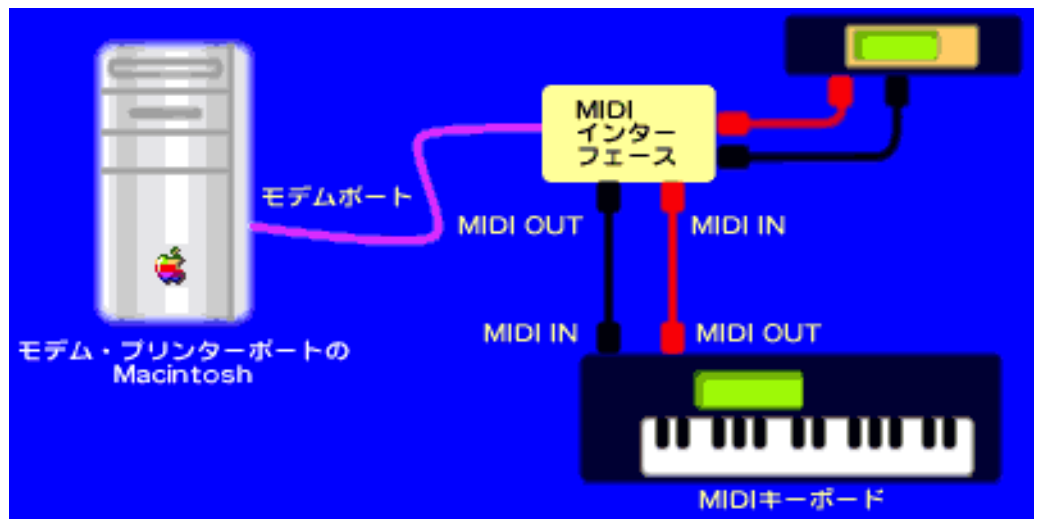
[1] USB+Interface内蔵

[2] USB

[3] シリアル

[4] シリアル+Interface内蔵

[5] シリアル+MIDIカード



2.MIDIインターフェースにシンセサイザー、リズムマシンなどのMIDIデバイスを接続し、電源を入れておく

MIDIインターフェースのMIDI OUT端子と音源やシンセサイザーのMIDI IN端子をMIDIケーブルでつなぎます。
また、キーボード（鍵盤）からの録音をする場合は、MIDIインターフェースのMIDI IN端子とキーボードのMIDI OUT端子をつなぎます。

(2)インストールの方法

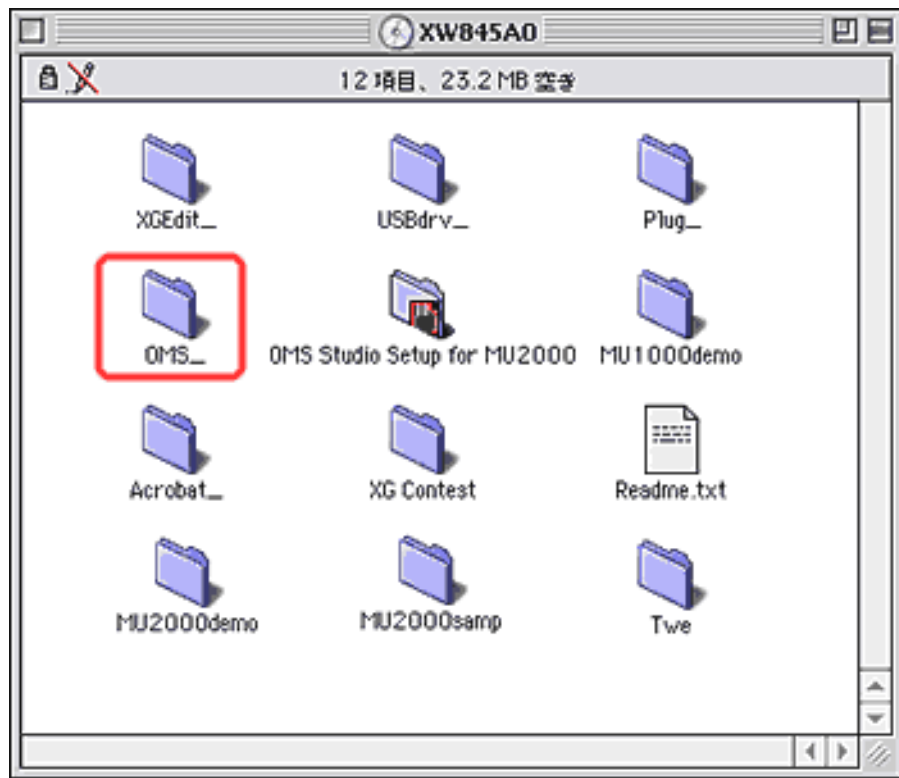
- ・ OMSインストール用のCD-ROMを持っている場合
(XGworks for Macをお持ちの方はこちら)

USBに接続するいろいろなデバイスや、シーケンスソフトによっては付属のCD-ROMにOMSのインストーラーが入っているものがあります。

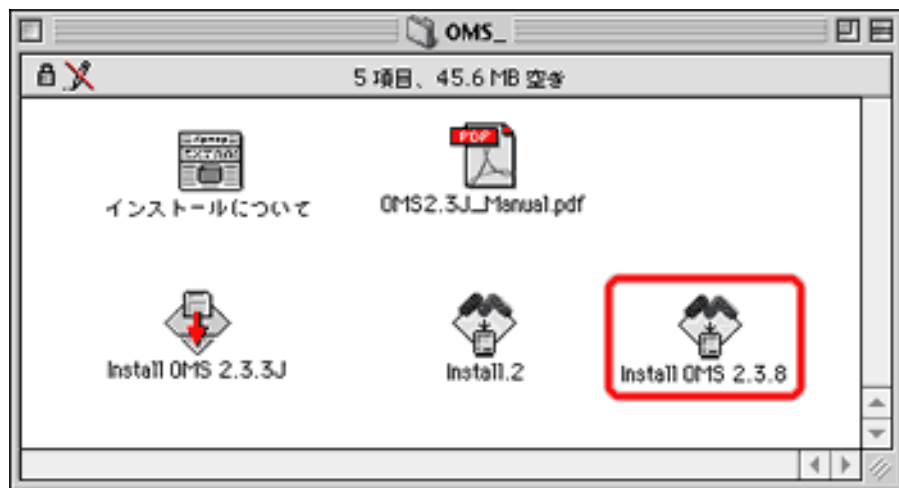
《音源に付属》

マスターディスク（CD-ROM）を挿入し、OMS インストーラーアイコンをダブルクリックしましょう。

下図は、ヤマハMU2000に付属しているCD-ROMの内容です。



OMS_フォルダの中にインストーラーが入っています。



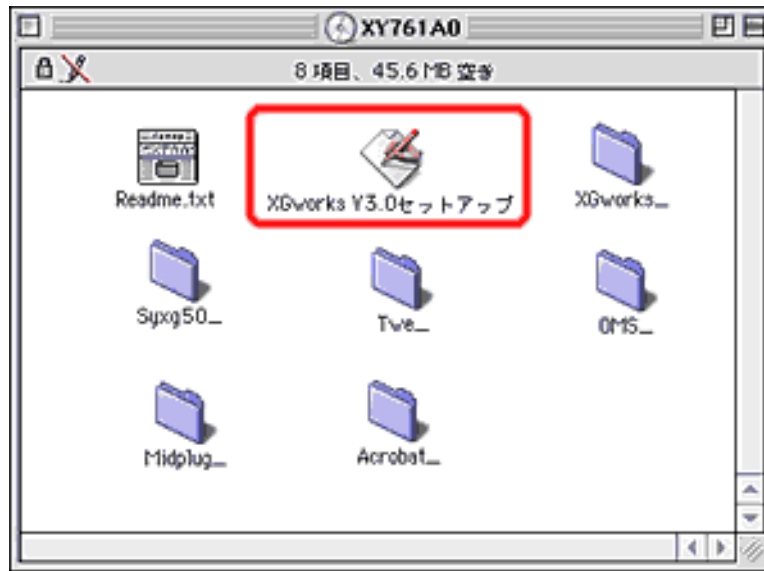
日本語のバージョン（2.3.3J）と最新版の英語バージョン（2.3.8）どちらかをダブルクリックします。

USB接続をする方は必ず、英語版の「2.3.8」を選んでください。

《シーケンスソフトに付属》

HELLO!MUSIC!に同梱されている「XGworks 3.0 for Macintosh」にはまとめているいろいろなソフトをインストールできるインストーラーがあります。

※ソフトウェア単体のCD-ROMにはUSBドライバが入っていません。また、USBドライバーは、Macの場合は自動的にインストールされず手動で行う必要があります。手動のインストール方法は、「[Synth&DTMページ](#)」のXGworks V3.0 for Macintosh機能紹介コーナー内の「[セットアップ](#)」の覧を参考に見てください。



「XGworks V3.0セットアップ」をダブルクリックしましょう。



右上にOMSを選択するところがありますので、クリックします。そのあとの簡易インストールの画面は共通です。

インストーラーアプリケーションの指示に従って質問に答えていきます。インストーラーは、自動的に必要なOMS ファイルをハードディスクにインストールします。

インストール後、再起動すればOMSを起動できます。

(USB接続の場合は自動的に認識され、接続に必要なファイルをインストールしてくれます。)

・株式会社メガフュージョンのホームページからダウンロードする場合

「OMS 2.3.8」(英語版)

Macのシステムが新しくなった時や、どうも調子が悪いといった時にはOPCODEのホームページで、最新のバージョンを常にチェックしましょう。

特に、OS9でUSB接続をする場合は、この「OMS2.3.8」でないと不具合が生じる場合がありますので、随時ダウンロードして快適に作業したいものです。

ダウンロードするとインストーラアイコンができるので、あなたのハードディスクにある、このアイコンと同じものをダブルクリックしてください。

(アイコンは環境によって変わる場合があるので、見つからない場合は、名前で探してください。)



Install OMS 2.3.8

[←前へ](#)

[次へ→](#)



Copyright ©2000 YAMAHA CORPORATION.
All rights reserved.

- 【1】 OMSって？
- 【1-1】 ソフトシンセサイザーで鳴らす？
- 「S-YXG50」のインストール
- OMSはインストールされている
- OMSのセットアップ
- 「XGplayer for Mac V1.0」
- 「MidRadio」のインストール
- 「MidRadio」の設定
- 「MidRadio」で遊ぶ！
- 【1-2】 外部にMIDI音源をつないでみよう
- <何をつなぐの？>
- (1)USB端子
- (2)モデム/プリンタポート
- (3)その他
- 【2】 OMSソフトウェアのインストール
- (1)インストールする前に
- (2)インストールの方法
- (3)インストール後のファイル
- (4)アンインストールについて

・インストール開始



ここは迷わず「Continue」ですね。

OMSのEasy Installの画面です。よく分からない場合はこのままInstallボタンをクリックしましょう。



カスタムインストールを試みようかな？という人は…



Basic OMS	OMSの基本ソフトです。これは必ずチェックしましょう。
Studio 4, Studio 5, and Studio Patches	OPCODE社のMIDIインターフェースを使用する場合に必要です。

【3】『スタジオ セットアップ』を 作ってみよう

(1)『スタジオセットアップ』

(2)AppleTalkのこと

(3)MIDIデバイスの検索

(4)接続を確認

【4】実践『スタジ オセットアップ』

[1] USB+Interface内蔵

[2] USB

[3] シリアル

[4] シリアル+Interface
内蔵

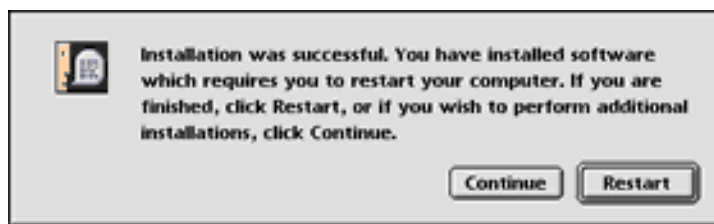
[5] シリアル+MIDIカー
ド

IAC Driver	複数のソフト間をやりとりするのに必要です。チェックしておいた方がいいでしょう。
Serial Switch	これはちょっと古いMacのQuadra900,950,Macintosh IIFxという機種にインストールする場合に必要です。
OMS Technical Publication	OMSに関する情報ですので、チェックしておきましょう。

インストール中です。ジッと待つ…



インストールが正常に終了したら、すぐにRestart（再起動）をしてください。ContinueでFinderに戻れますが、OMSは稼動していませんので…



再起動すると、ハードディスクの中にOMS（OPCODE）のフォルダができています。



この画面ではMacintoshHDの中のOpcodeというフォルダにOMS Applicationsフォルダができています。

どこにあるかわからない場合はファイル検索で見つけてください。

さらにフォルダを開くとOMS Setupがあります。オレンジ色のアイコンなのですぐわかりますね。



(3)インストールされたファイルについて

OMSはシステムフォルダに機能拡張書類やコントロールパネル書類などを追加します。また、スタジオセットアップ（OMS Setup）というアプリケーションはOMSに必要なものなので、ハードディスクから削除しないようにしましょう。

システムフォルダの中にできるもの



OMS Folder

Macに接続されたものや、内蔵されたものやとりするもの（ドライバ）がいろいろ入っています。

システムフォルダ>コントロールパネル



OMS Preferred Device

OMS優先ディバイスを設定するところで、再生専用のソフトウェアなどで、優先されるソフトシンセサイザーやMIDIインターフェースを選択できます。

システムフォルダ>機能拡張



Open Music System

これがないとOMSは機能しないという、大事なファイルです。

(4)アンインストールについて

インストールしたばかりで、もうアプリケーションを削除する話も変ですが、どこにどんなファイルが入っているかを知っておくことは、Macと快適に過ごすためにも大切なことです。

新しいバージョンと古いバージョンや、日本語と英語バージョンの混ざった環境では、不具合も起こりがちです。基本的にはシステムに関する書類は混在しませんが、OMS Setupのアプリケーションは残っています。

実際に行うのは、いろいろ調べたあとにしましょう。

A.機能拡張だけをはずす方法

OS8以降のシステムには、コントロールパネルの中に「機能拡張マネージャ」というのがあると思います。OMSに限らず、他のアプリ

ケーション同士がぶつかり合ってしまう、システムが不安定になってしまうことがあります。

OMSをインストールしたために、他のアプリケーションが動かなくなってしまったては困りますよね。
ハードディスクから、完全に削除してしまうのではなく、一時的に使わなくすることはたまにあります。

「機能拡張マネージャ」を起動して、「Open Music System」のチェックをはずして（空欄にして）再起動しましょう。

また、使いたいときは再度「機能拡張マネージャ」で「Open Music System」にチェックを付け、再起動すればOMSが稼動し始めます。

B.完全に削除する方法

システムに関連するシステムフォルダの中のをゴミ箱に捨てるのはちょっと怖いですが、削除すべきファイルについて説明しておきます。

インストールされたファイルは上記「(3)インストールされたファイルについて」で説明しましたが、それらのファイルをゴミ箱に捨てるということです。

それ以外にMacintoshHD内にOPCODEフォルダもありますので、それも捨ててしまえば、キレイさっぱりです。

しかし、慎重にやらないと大変なことになりますので、自信のない方はやめておいたほうがいいです。

[←前へ](#)

[次へ→](#)



【1】 OMSって？
【1-1】 ソフトシンセサイザーで鳴らす？
「S-YXG50」のインストール
OMSはインストールされている
OMSのセットアップ
「XGplayer for Mac V1.0」
「MidRadio」のインストール
「MidRadio」の設定
「MidRadio」で遊ぶ！
【1-2】 外部にMIDI音源をつないでみよう
<何をつなぐの？>
(1)USB端子
(2)モデム/プリンタポート
(3)その他
【2】 OMSソフトウェアのインストール
(1)インストールする前に
(2)インストールの方法
(3)インストール後のファイル
(4)アンインストールについて

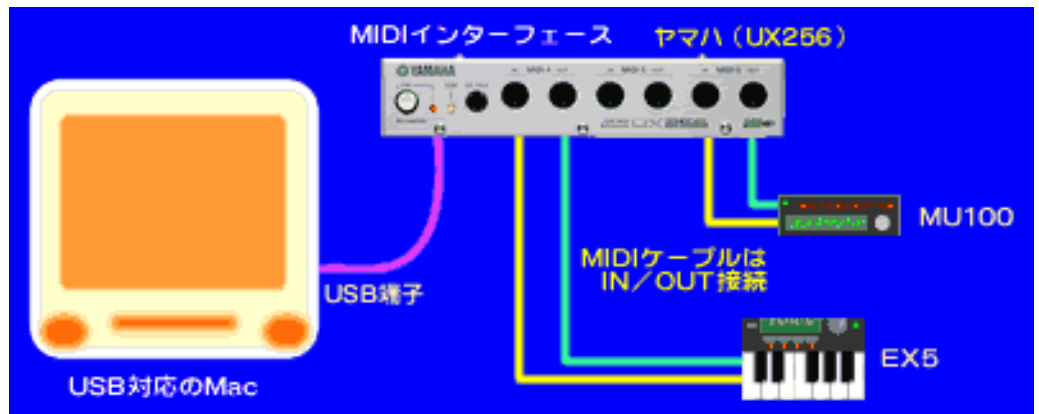
【3】 『スタジオセットアップ』を作ってみよう！

(1) 『スタジオセットアップ』って何？

どんなMIDI機器を使うかを設定しておくところです。

- Macに接続されているMIDIインターフェース
- コンピュータに内蔵されたMIDIカード
- ヤマハ「S-YXG50」やApple「QuickTime音色」などの、ソフトシンセサイザー
- MIDIインターフェースに接続されたシンセサイザー、リズムマシンなどのMIDIデバイス

[音を出すために必要なもののセッティングを探してくれる]



- XGworks for Macや、MU2000などには、あらかじめOMSのセットアップファイルが付いています。これをダブルクリックすればセットアップ完了なのですが、MIDIインターフェースを購入したり、他の音源を追加したときなどに、セットアップの方法を理解しておけば困らないと思います。

(2) AppleTalkのこと

AppleTalkって、昔からあるんですが、Mac同士をつなげてネットワーク環境を作るためのものなんですよ。現在もEthernetでネットワークを作るときにも必要なものです。

ただ、MIDIのデータを扱うときには、ちょっと邪魔をしてしまうことがあります。これまでの説明の中でもOMSを立ち上げる時に、AppleTalkをオンにするとかオフにするとかの設定があったと思います。

【3】『スタジオ セットアップ』を 作ってみよう

(1)『スタジオセットアッ
プ』

(2)AppleTalkのこと

(3)MIDIデバイスの検索

(4)接続を確認

【4】実践『スタジ オセットアップ』

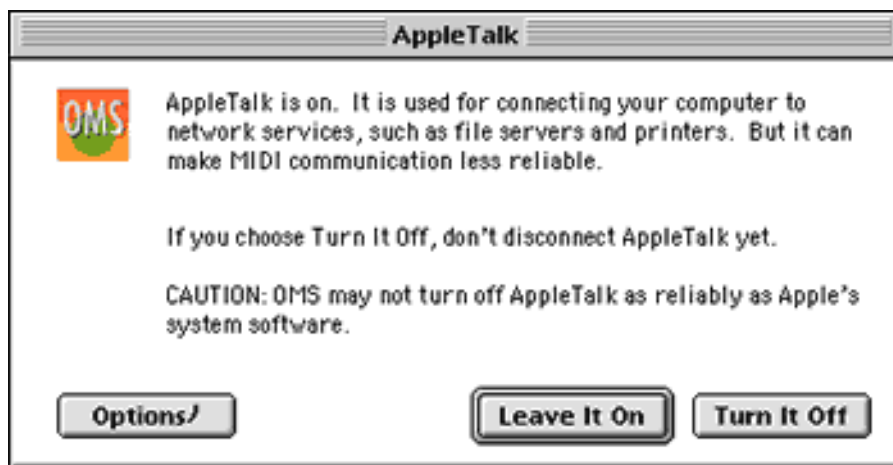
[1] USB+Interface内蔵

[2] USB

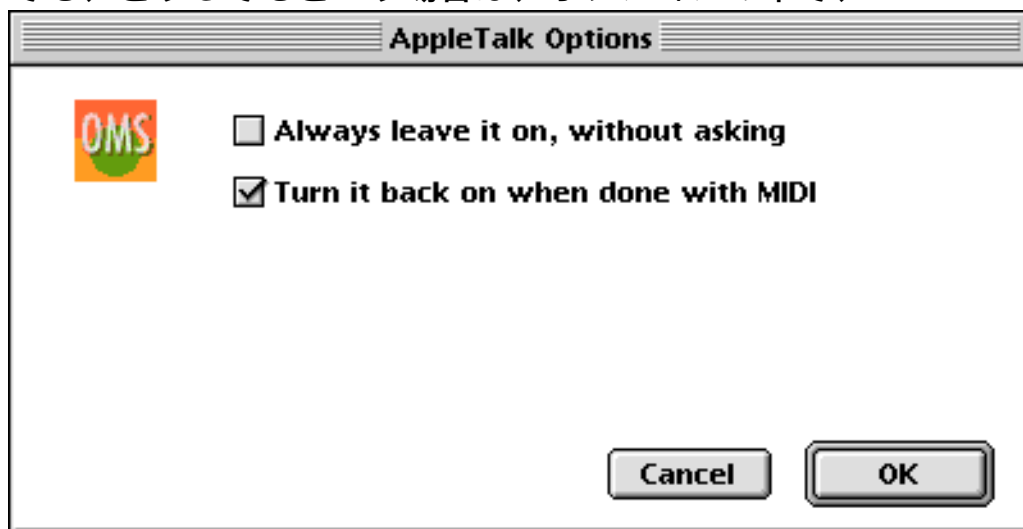
[3] シリアル

[4] シリアル+Interface
内蔵

[5] シリアル+MIDIカー
ド



一般的にはオフにしておくのがいいです。
でも、どうしてもという場合は、オプションの中で、



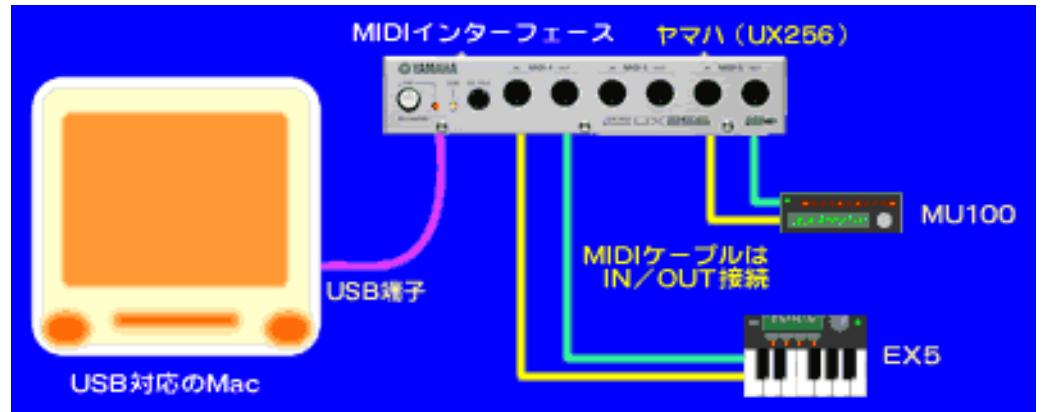
「MIDIの使用後に再びオンにする」「Turn it back on when done with MIDI」にチェックをしておきましょう。
AppleTalk対応のプリンターで譜面印刷をするときは常にオンにしておく必要があります。

←前へ

次へ→



(3)MIDIデバイスの検索



ヤマハのMIDIインターフェースには付属のCD-ROMにUSB用ドライバのインストーラーが入っています。OMSを先にインストールしてから、USB用のドライバをインストールしてください。

UX256に付属のCD-ROMの内容です。



「Install USB Driver」をダブルクリックしましょう。



特に設定はないので、「Install」をクリックします。

- 【1】 OMSって？
- 【1-1】 ソフトシンセサイザーで鳴らす？
 - 「S-YXG50」のインストール
 - OMSはインストールされている
 - OMSのセットアップ
 - 「XGplayer for Mac V1.0」
 - 「MidRadio」のインストール
 - 「MidRadio」の設定
 - 「MidRadio」で遊ぶ！
- 【1-2】 外部にMIDI音源をつないでみよう
 - <何をつなぐの？>
 - (1)USB端子
 - (2)モデム/プリンタポート
 - (3)その他
- 【2】 OMSソフトウェアのインストール
 - (1)インストールする前に
 - (2)インストールの方法
 - (3)インストール後のファイル
 - (4)アンインストールについて

【3】『スタジオ セットアップ』を 作ってみよう

(1)『スタジオセットア
ップ』

(2)AppleTalkのこと

(3)MIDIデバイスの検索

(4)接続を確認

【4】実践『スタジ オセットアップ』

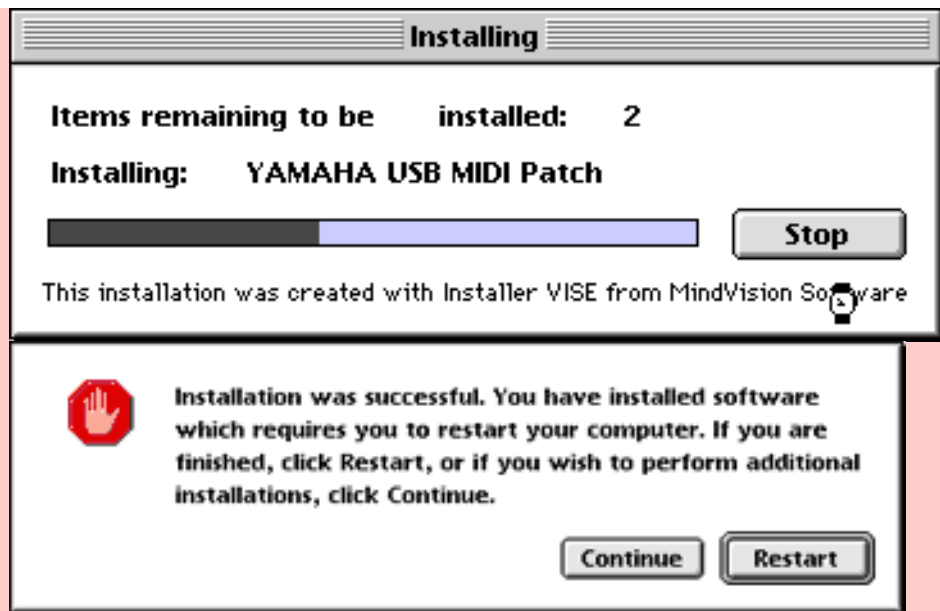
[1] USB+Interface内蔵

[2] USB

[3] シリアル

[4] シリアル+Interface
内蔵

[5] シリアル+MIDIカー
ド



インストールが終了したら、再起動[Restart]しましょう。

OMSの前にインターフェースのドライバをインストールしてしまった場合は、もう一度ドライバをインストールし直してください。

(OMSフォルダへインストールすべきファイルが足りなくなってしまうため)

さて、「OMS Setup」を起動してみましょう。
今までに、一度もOMSを起動していないと、新規セットアップ作成[Create a New Studio Setup]の画面になります。



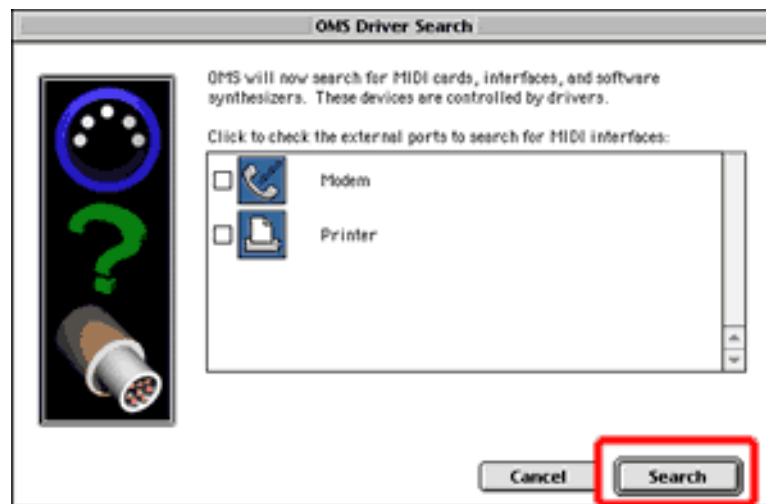
OKをクリックしましょう。

[Create a New Studio Setup]の画面に、ならない人は…



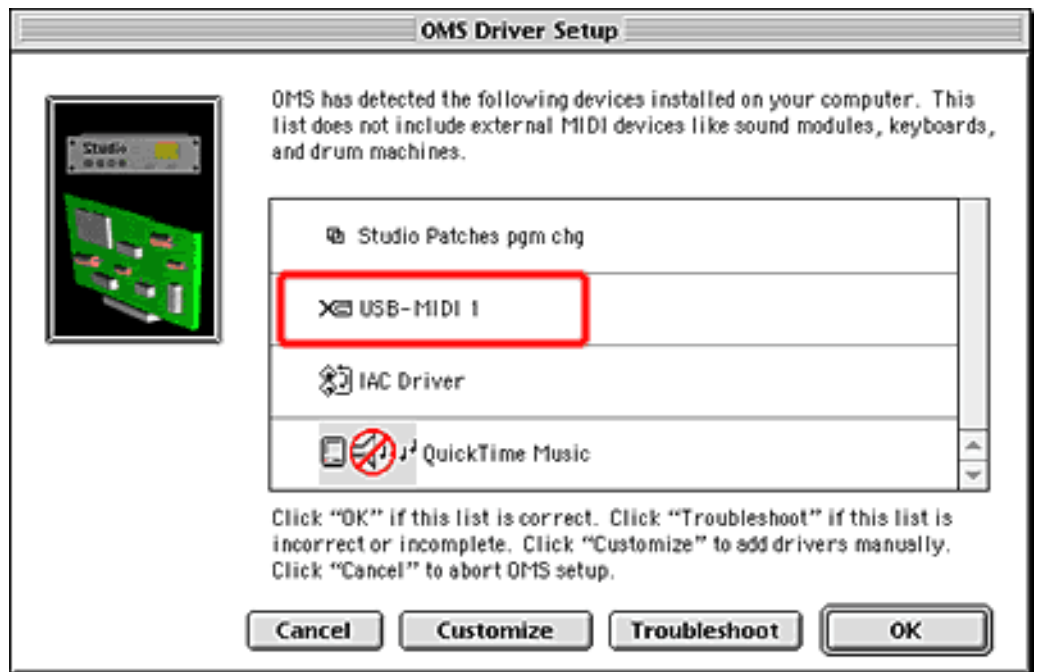
これまでにS-YXG50のソフトシンセサイザーを試した方は、始めにこの画面もしくは、いろいろアイコンが並んだ画面になっているかもしれません。

その場合はファイル[File]メニューから、新規セットアップ[New Studio Setup]を選択してください。



OMSデバイス検索[OMS Driver Search]の画面になるので、まずはモデムポートかプリンタポートかのアイコンの、左側のチェックボックスでクリックしましょう。

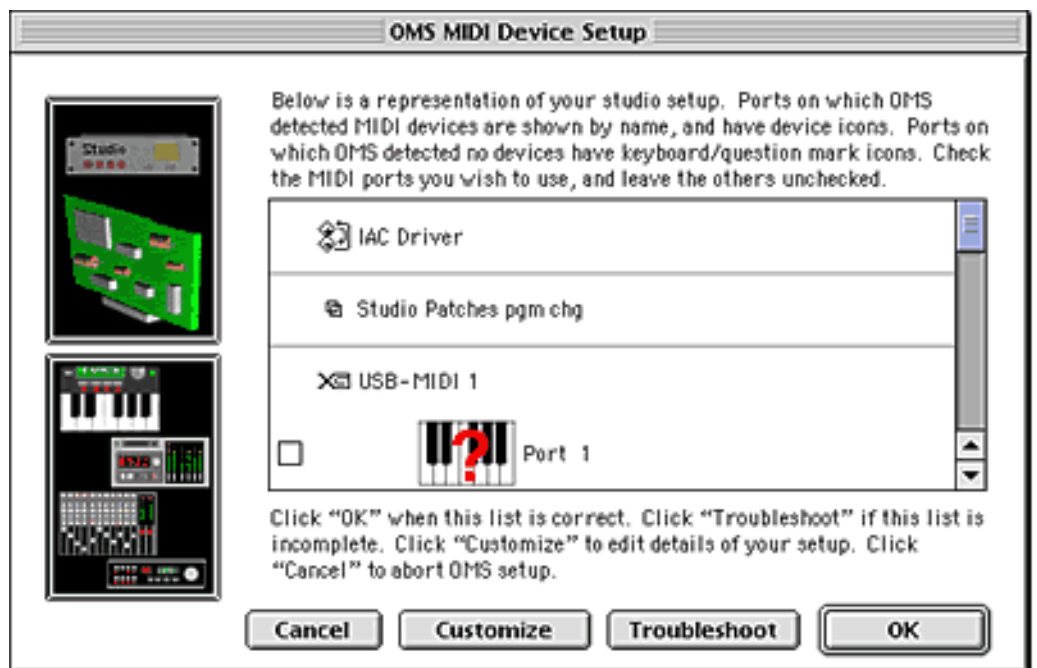
ちなみに、USB端子で接続する場合はチェックは必要ありません。



ヤマハのUSBインターフェースを認識しました。

次にMIDIインターフェースに接続されているMIDI音源やキーボードを探しにいきます。しかし、全てのMIDI機器を認識するとは限りません。

画面をスクロールしてみると、MIDIポートが16個あることは認識してくれました。



とりあえず、全てのポートをオンにするため、Port 1～16の左側にあるチェックボックスを全てクリックして、チェックされている状態（×がついている）にし、OKを押しましょう。

ここまでのスタジオセットアップを保存するダイアログウィンドウになるので、「My Studio Setup」のままで、「保存」をクリック

します。
(自分のわかりやすい名前にしてもいいんです…)



始めのセットアップができました。

[←前へ](#)

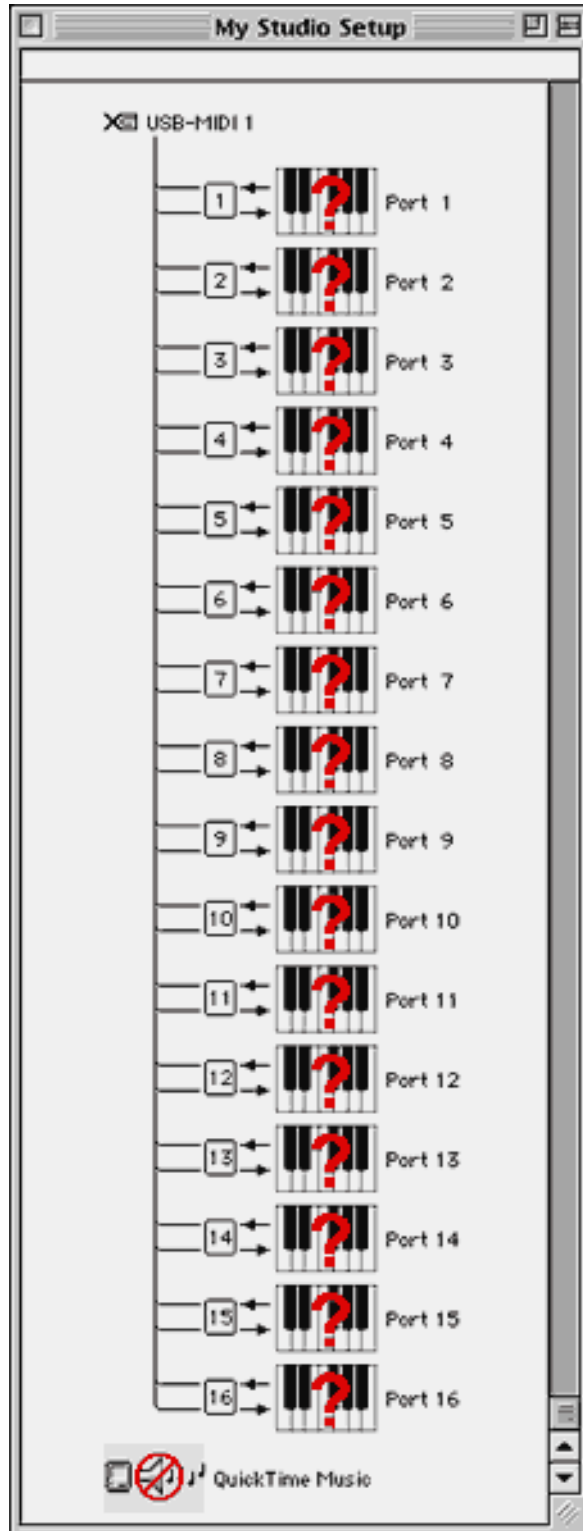
[次へ→](#)



Copyright ©2000 YAMAHA CORPORATION.
All rights reserved.

(4)接続の確認

さて、音源をちゃんとMIDI IN-OUT接続しているが見つかる場合もありますが、今回は見つからなかったので手動で設定してみましょう。



ここでは「MU100」という音源を接続していますので、設定をしましょう。

【1】 OMSって？

【1-1】 ソフトシンセサイザーで鳴らす？

「S-YXG50」のインストール

OMSはインストールされている

OMSのセットアップ

「XGplayer for Mac V1.0」

「MidRadio」のインストール

「MidRadio」の設定

「MidRadio」で遊ぶ！

【1-2】 外部にMIDI音源をつないでみよう

<何をつなぐの？>

(1)USB端子

(2)モデム/プリンタポート

(3)その他

【2】 OMSソフトウェアのインストール

(1)インストールする前に

(2)インストールの方法

(3)インストール後のファイル

(4)アンインストールについて

【3】『スタジオ セットアップ』を 作ってみよう

(1)『スタジオセットアップ』

(2)AppleTalkのこと

(3)MIDIデバイスの検索

(4)接続を確認

【4】実践『スタジ オセットアップ』

[1] USB+Interface内蔵

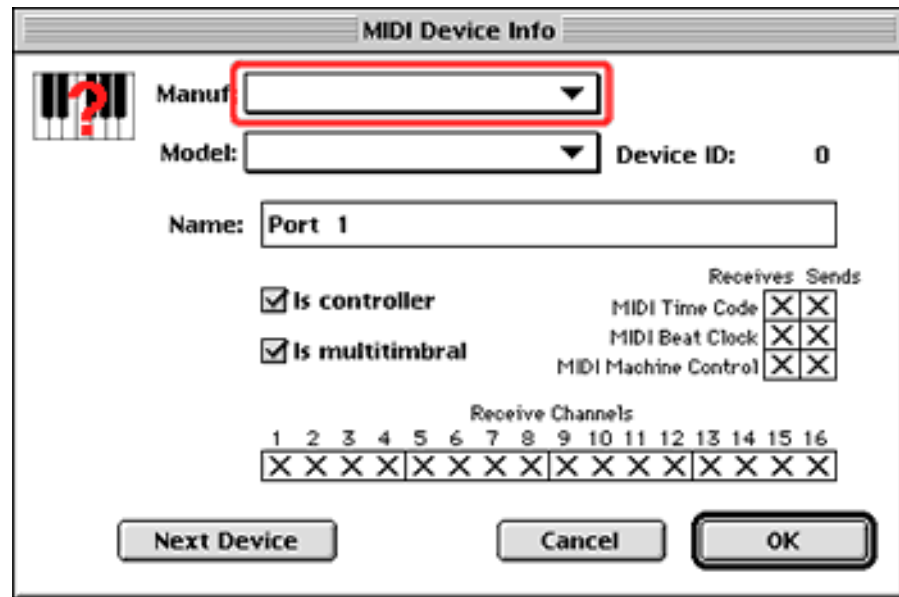
[2] USB

[3] シリアル

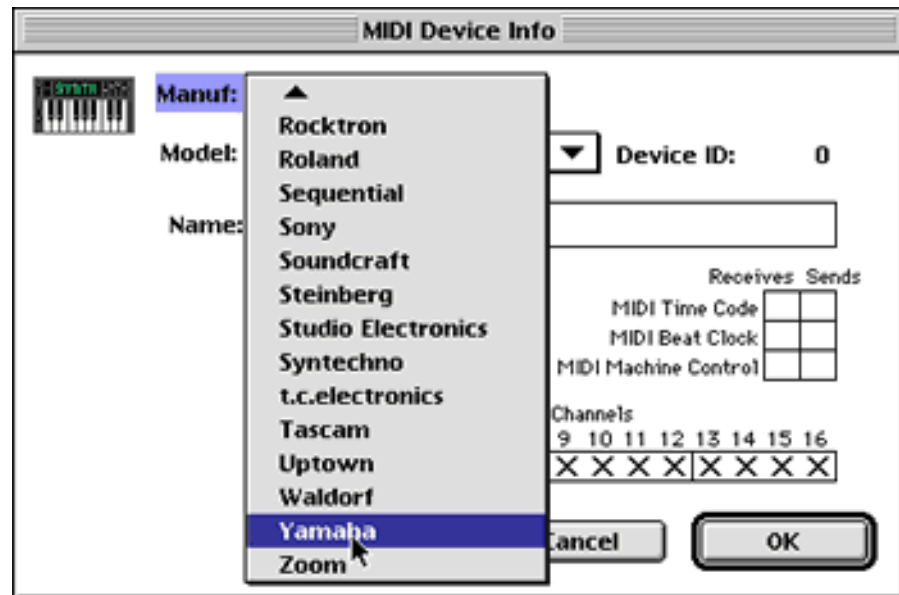
[4] シリアル+Interface
内蔵

[5] シリアル+MIDIカー
ド

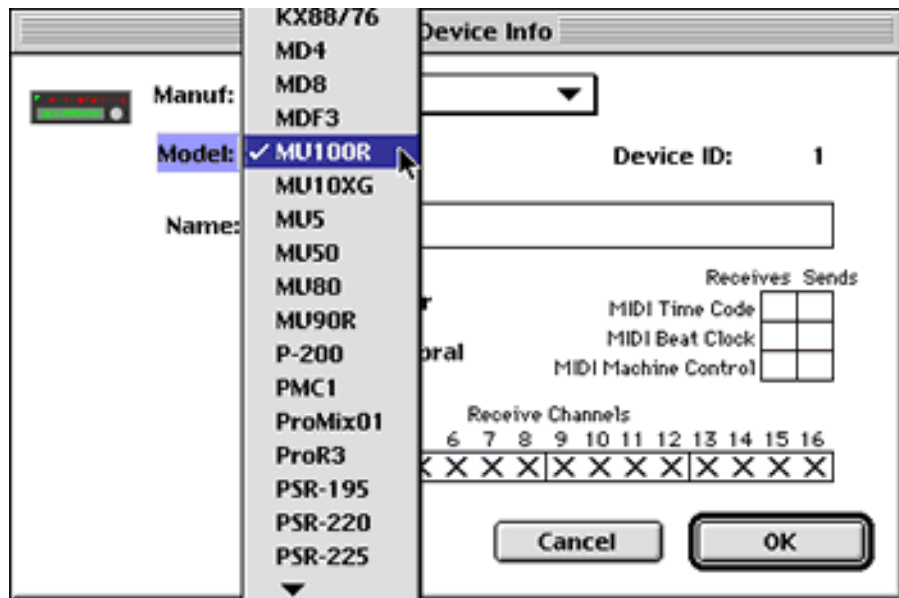
Port 1の左にある、鍵盤のアイコンをダブルクリックします。



「Manuf」の項目はメーカー名を選択します。

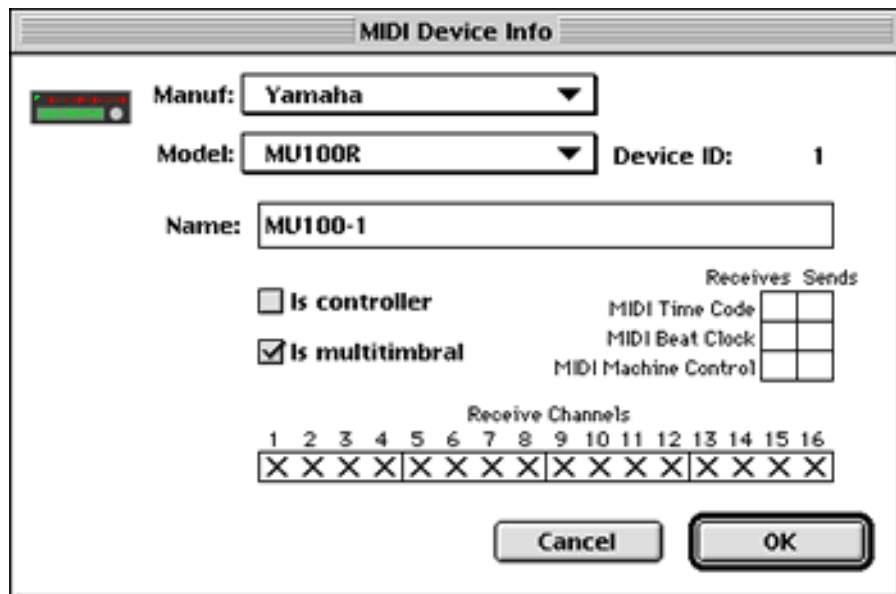


「Model」の項目から機種名を選択します。



この中に対応する機種がないかもしれません。その時はなるべく近いものを選びましょう。

例えば、エレクトーン「EL900」はリストの中にはないですが、標準的なXG音源である「MU50」を選択しておけば大丈夫です。（ただし、本体に内蔵のシーケンサーと同期するときは、右側の「MIDI Beat Clock」をチェックしておきましょう。）

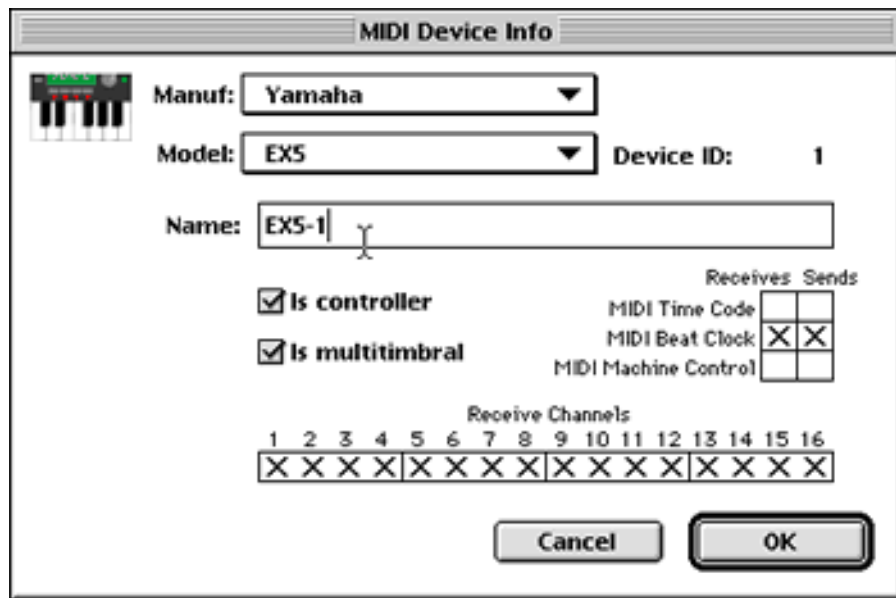


設定が終わったらOKをクリックします。

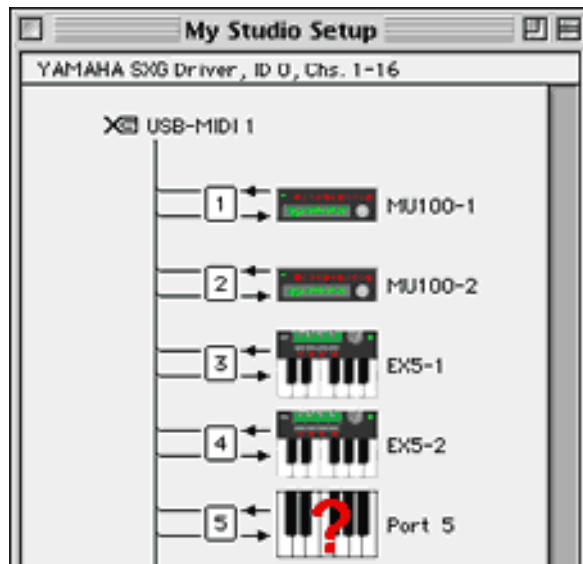
MU100は2ポート（32パート）の音源ですので、2回設定をします。

次は2ポート目を同じくMU100-2として設定します。

3,4ポートは「EX5」のシンセサイザーです。



以上、設定をしたものが、以下の通りです。



さて、音が出るかどうかのテストをしてみましょう！
スタジオ[Studio]メニューのテスト[Test Studio]を選択しまし
よう。

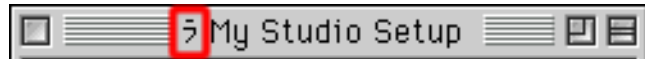


Test Studioがグレーになっていて、選択
できないことがあります。

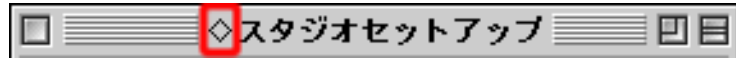
その場合はファイル[File]メニューから有
効にして保存[Save and Make Current]を
選択してから、再度スタジオメニューを
開くと、テストスタジオを選択できると
思います。
ときには有効にする[Make Current]の時
もあります。

現在有効なセットアップの時はウィンドウのファイル名「My Studio Setup」のすぐ左に、

英語版の時は半角カタカナの「ラ」



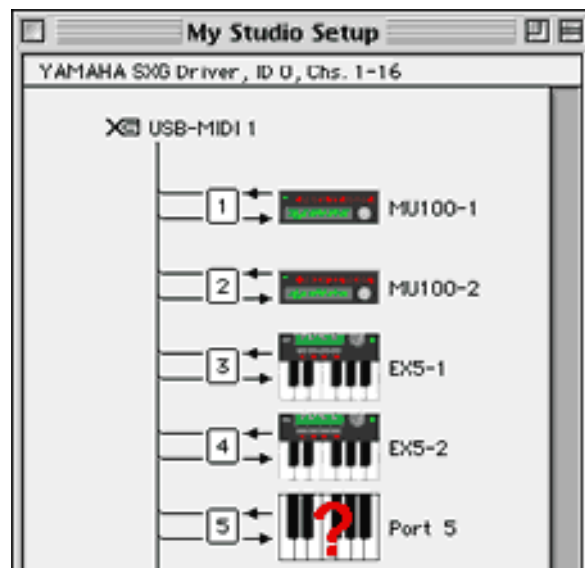
日本語版の時はひし形「◇」



が表示されます。

音源のアイコンのところにマウスカーソルを移動させると、カーソルの形が「音符」の形に変わります。ここで1回クリックをしてみましょう。

音源から「ジャン！」と不協和音が聞こえれば、OKです。



テストが終わったら、再度スタジオ[Studio]メニューの、テスト[Test Studio]を選択し、チェックをはずしておきましょう。

現在の状態を保存するためにファイル[File]メニューから保存[Save]を選択しておきましょう。

音が鳴らないときは…

MIDIインターフェースやMIDI音源の接続をまずチェックしましょう。

MIDIインターフェース内蔵の音源にはHOST SELECTというのがあります。

Macとシリアルケーブルで直結するときは「Mac」に

MacとUSBで直結するときは「USB」に

Macと単体のMIDIインターフェースを介して、接続するときは「MIDI」に

それぞれのスイッチの位置を確認してください。

<USBに関すること>

Mac側にUSB端子は2つ付いていますが、これはどちらに接続してもかまいません。

USBケーブルはMacの電源が入っている最中でも、抜き差しができる便利なものですが、できれば接続してから電源を入れた方がいいです。

それから、USB機器を複数持っていて、ハブ（HUB）という分配するものを使っている場合、うまくいかないことがあります。まずはインターフェースとMacを直接接続してみましょう。

ハブに接続してから、もう一度、始めからスタジオセットアップを作り直すと、うまくいくことがあります（不思議ですが本当です）。

<MIDIに関すること>

インターフェースから音源へのMIDIのINとOUTは、間違いやすいところですよ。IN同士をつなげていたりするとダメです。

また、途中から電源をいれたりしても鳴らないことがあります。MIDIインターフェースによっては、信号が届いているかどうかのランプがついているものもあるので、チェックしましょう。

<シリアルケーブルに関すること>

モデム・プリンタポートと接続する、シリアルケーブルにはストレートとクロスという2種類があります。まったく同じ形状ですが、インターフェースと接続するのは、クロスケーブルです。ストレートタイプはシリアルケーブルの分配器などに使うものなので、注意しましょう。

<その他>

それでも、おかしい…さっきまで鳴っていたのに…ということでしたら、Macを再起動してみましょう。

[←前へ](#)

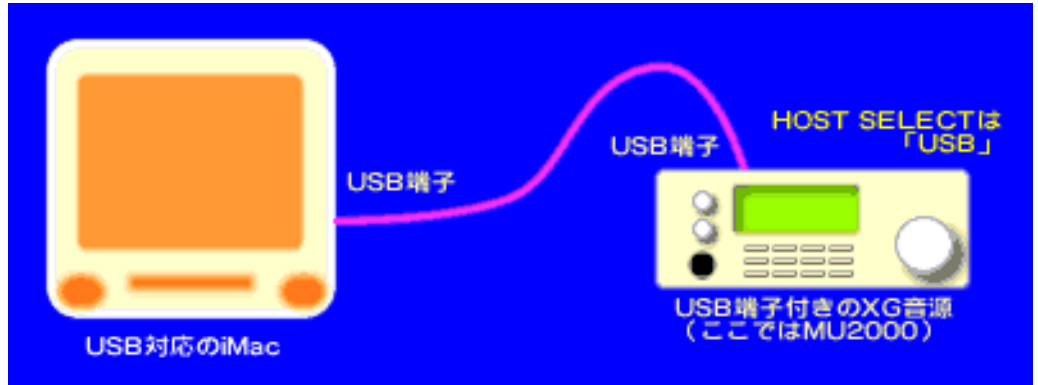
[次へ→](#)



【1】 OMSって？
【1-1】 ソフトシンセサイザーで鳴らす？
「S-YXG50」のインストール
OMSはインストールされている
OMSのセットアップ
「XGplayer for Mac V1.0」
「MidRadio」のインストール
「MidRadio」の設定
「MidRadio」で遊ぶ！
【1-2】 外部にMIDI音源をつないでみよう
<何をつなぐの？>
(1)USB端子
(2)モデム/プリンタポート
(3)その他
【2】 OMSソフトウェアのインストール
(1)インストールする前に
(2)インストールの方法
(3)インストール後のファイル
(4)アンインストールについて

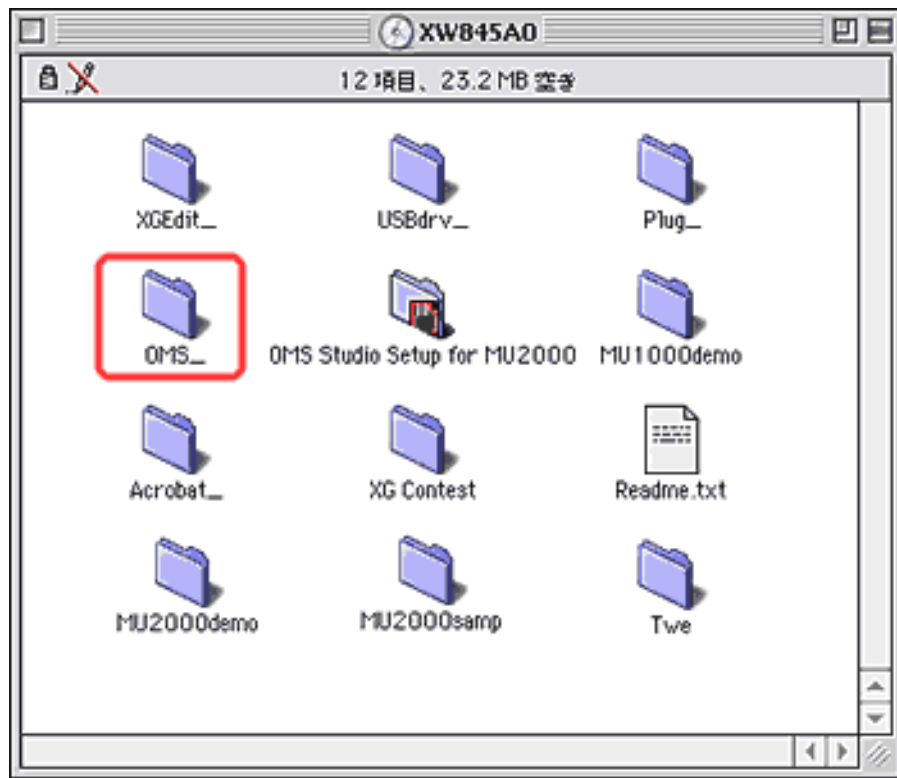
【4】 実践！『スタジオセットアップ』

<セットアップ例[1]> USBでの接続



さて、ここではUSBのMacとUSB端子を持ったMIDI音源を接続してのセットアップをやってみます。

USB端子を持ったXG音源には、CD-ROMが付属していて、その中に「OMS」や「ドライバ」というのが入っています。



「OMS_」のフォルダにOMSのインストーラーが入っています。

【3】『スタジオ セットアップ』を 作ってみよう

(1)『スタジオセットアップ』

(2)AppleTalkのこと

(3)MIDIデバイスの検索

(4)接続を確認

【4】実践『スタジ オセットアップ』

[1] USB+Interface内蔵

[2] USB

[3] シリアル

[4] シリアル+Interface
内蔵

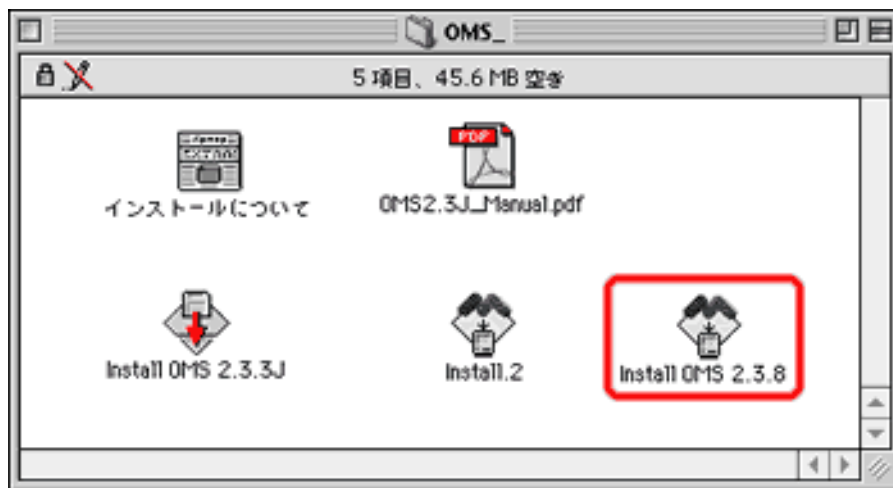
[5] シリアル+MIDIカー
ド

Attention!!

MU2000やMU1000の発売時期によっては「OMS2.3.3J」だけの
場合もあるようです。

USBで接続の場合は、「OMS2.3.8」英語版をインストールする
必要があります！

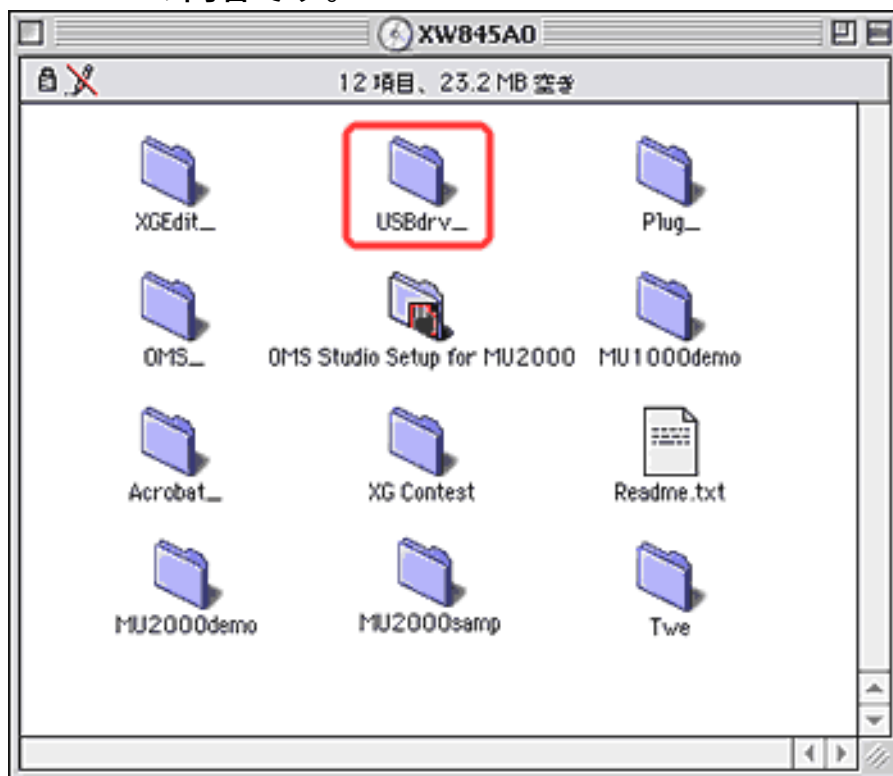
ダウンロードの方法はこちら



インストールの方法については
「【2】OMSソフトウェアのインストール（2）インストールの方
法・インストール開始」を参照してください。

次にドライバをインストールしましょう。

CD-ROMの内容です。



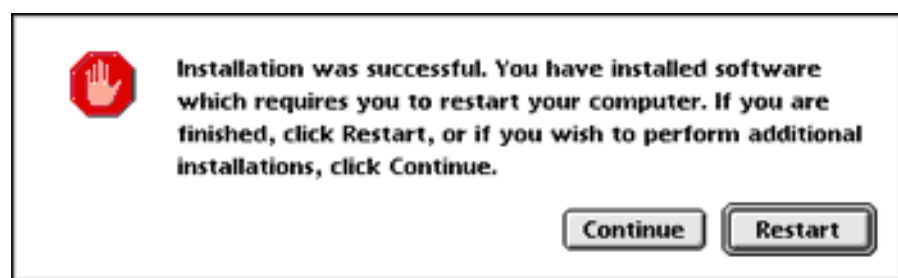
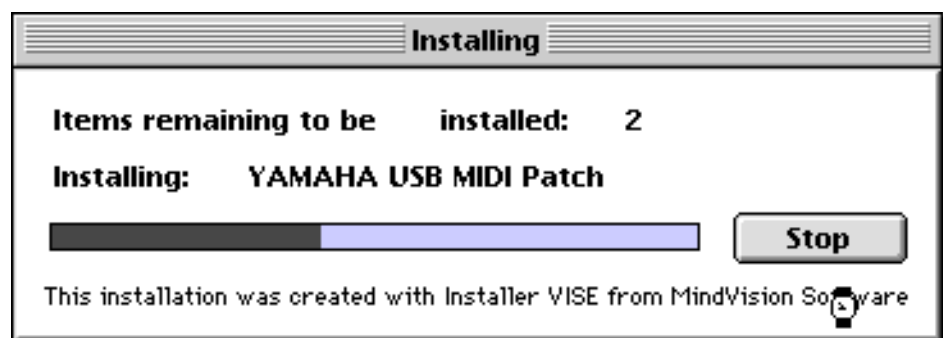
「USBdrv_」のフォルダを開くと「Install USB Driver」が入っています。



早速、ダブルクリックしてインストールしてみましょう。

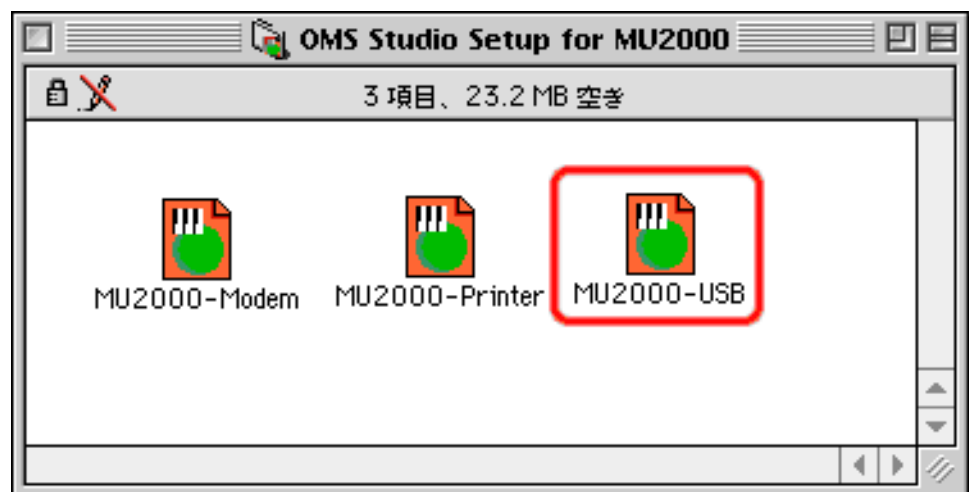
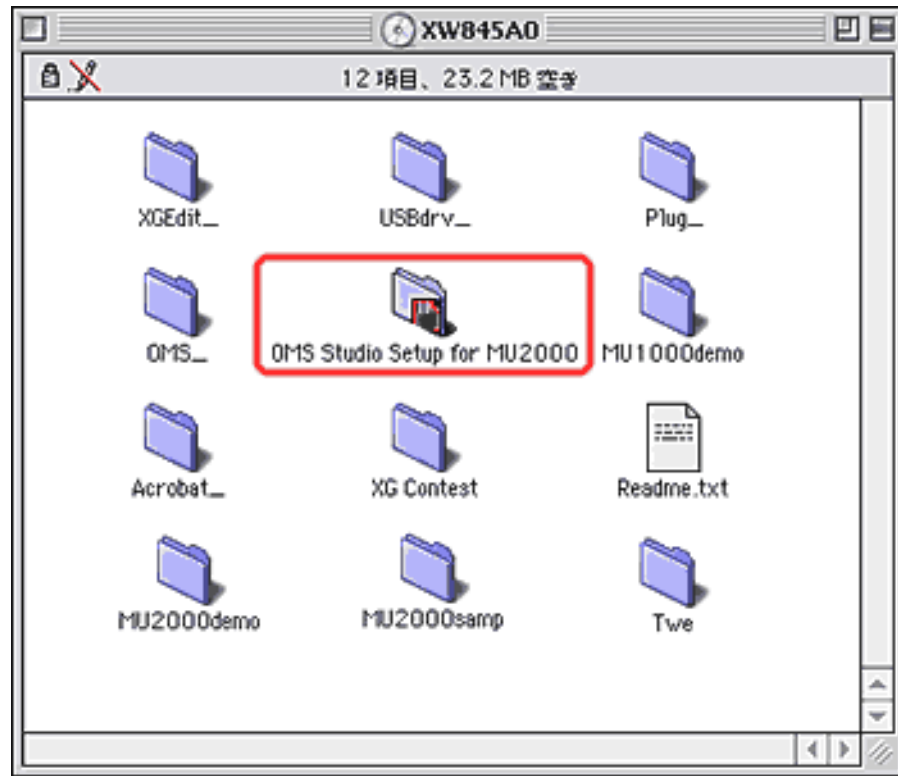


「Install」ボタンをクリックします。



インストール終了後は再起動[Restart]をしましょう。

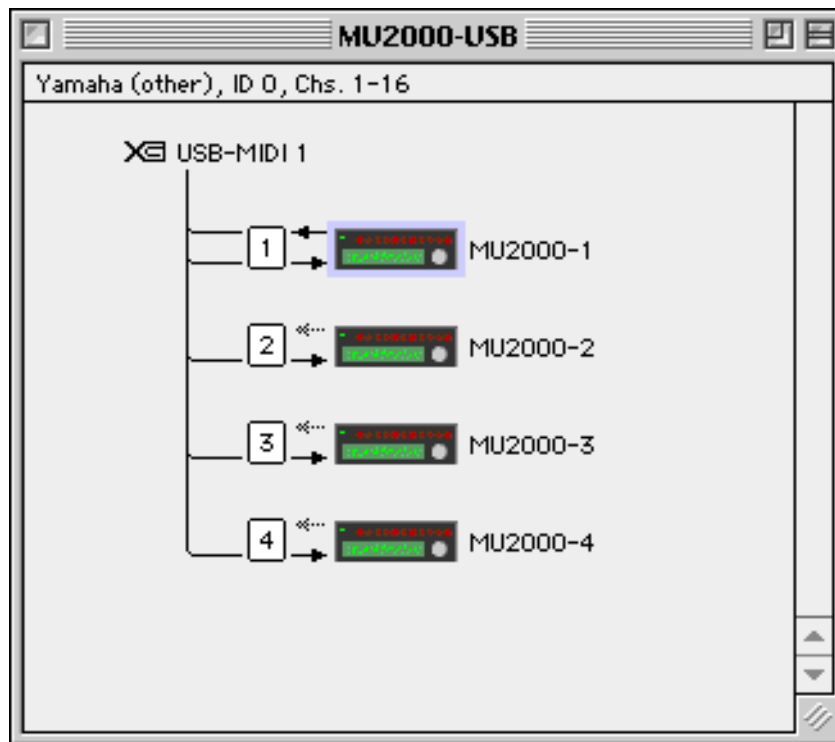
また、MU2000にはOMS用のスタジオセットアップ用のファイルがあらかじめCD-ROMに用意されています。



このファイルをデスクトップ（ハードディスク内の任意の場所）にドラッグして、コピーしましょう。

コピーした「MU2000-USB」のファイルをダブルクリックしましょう。

（CD-ROMから直接ダブルクリックしようとする、エラーになります。）



OMS Setupが立ち上がり、こんな表示になります。
 MU2000は64パートの音源なので（1ポートにつき16パート）、4ポート使えることになります。

さて、音が出るかどうかのテストをしてみましょう！
 スタジオ[Studio]メニューのテスト[Test Studio]を選択しましょう。

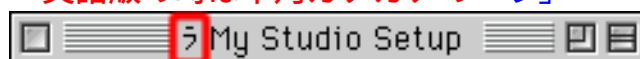


Test Studioがグレーになっていて、選択できないことがあります。

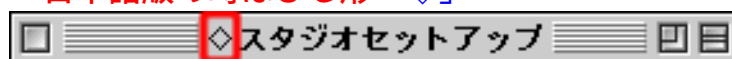
その場合はファイル[File]メニューから有効にして保存[Save and Make Current]を選択してから、再度スタジオメニューを開くと、テストスタジオを選択できると思います。
 ときには有効にする[Make Current]の時もあります。

現在有効なセットアップの時はウィンドウのファイル名「My Studio Setup」のすぐ左に、

英語版の時は半角カタカナの「ラ」



日本語版の時はひし形「◇」



が表示されます。

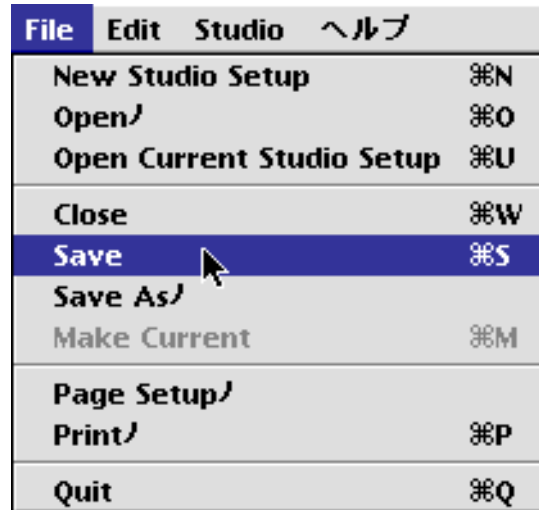
音源のアイコンのところにマウスカーソルを移動させると、カーソ

ルの形が「音符」の形に変わります。ここで1回クリックをしてみましょう。

音源から「ジャン！」と不協和音が聞こえれば、OKです。

テストが終わったら、再度スタジオ[Studio]メニューの、テストスタジオ[Test Studio]を選択し、チェックをはずしておきましょう。

現在の状態を保存するためにファイル[File]メニューから保存[Save]を選択しておきましょう。



音が鳴らないときは…

MIDIインターフェースやMIDI音源の接続、電源をまずチェックしましょう。

<音源側の設定に関すること>

USB対応のMIDI音源のHOST SELECTは「USB」になっていますか？

<USBに関すること>

Mac側にUSB端子は2つ付いていますが、これはどちらに接続してもかまいません。

USBケーブルはMacの電源が入っている最中でも、抜き差しができる便利なものですが、できれば接続してから電源を入れた方がいいです。

それから、USB機器を複数持っていて、ハブ（HUB）という分配するものを使っている場合、うまくいかないことがあります。まずはインターフェースとMacを直接接続してみましょう。

ハブに接続してから、もう一度、始めからスタジオセットアップを作り直すと、うまくいくことがあります（不思議ですが本当です）。

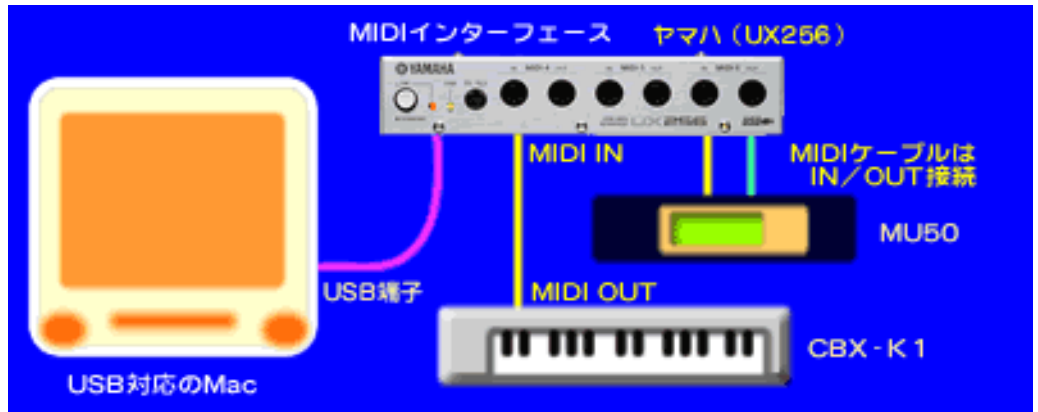
<その他>

それでも、おかしい…さっきまで鳴っていたのに…ということでしたら、Macを再起動してみましょう。



Copyright ©2000 YAMAHA CORPORATION.
All rights reserved.

【4】実践! 『スタジオセットアップ』
 <セットアップ例[2]> USBでの接続



さて、ここではUSBのMacとUSB端子を持ったMIDI音源を接続してのセットアップをやってみます。

MU50はUX256のMIDI 1のINとOUTに、CBX-K1のMIDI OUTはUX256のMIDI 2のINにそれぞれ接続しています。

その前にちょっと確認を…

1. OMS2.3.8のインストールができています。2.3.3Jまたはできていない→
2. USB用のドライバをインストールしている。していない→
3. 各機器の電源・接続はOKである。
4. 上手くいかない場合は、「何も接続しない状態」でセットアップを行ってください。

この接続でCBX-K1に関しては、MIDI OUTからインターフェースのMIDI INに1本だけ接続しています。本来CBX-K1は音源を持たないコントローラーですので、他にも入力用に使うキーボード等は、このような接続にしてください。

ヤマハのMIDIインターフェースには付属のCD-ROMにUSB用ドライバのインストーラーが入っています。OMSを先にインストールしてから、USB用のドライバをインストールしてください。

OMSの前にインターフェースのドライバをインストールしてしまった場合は、もう一度ドライバをインストールし直してください。
 (OMSフォルダへインストールすべきファイルが足りなくなってしまうため)

ファイル[File]メニューから、新規セットアップ[New Studio Setup]を選択します。

【1】OMSって?

【1-1】ソフトシンセサイザーで鳴らす?

「S-YXG50」のインストール

OMSはインストールされている

OMSのセットアップ

「XGplayer for Mac V1.0」

「MidRadio」のインストール

「MidRadio」の設定

「MidRadio」で遊ぶ!

【1-2】外部にMIDI音源をつないでみよう

<何をつなぐの?>

(1)USB端子

(2)モデム/プリンタポート

(3)その他

【2】OMSソフトウェアのインストール

(1)インストールする前に

(2)インストールの方法

(3)インストール後のファイル

(4)アンインストールについて

【3】『スタジオ セットアップ』を 作ってみよう

(1)『スタジオセットアップ』

(2)AppleTalkのこと

(3)MIDIデバイスの検索

(4)接続を確認

【4】実践『スタジ オセットアップ』

[1] USB+Interface内蔵

[2] USB

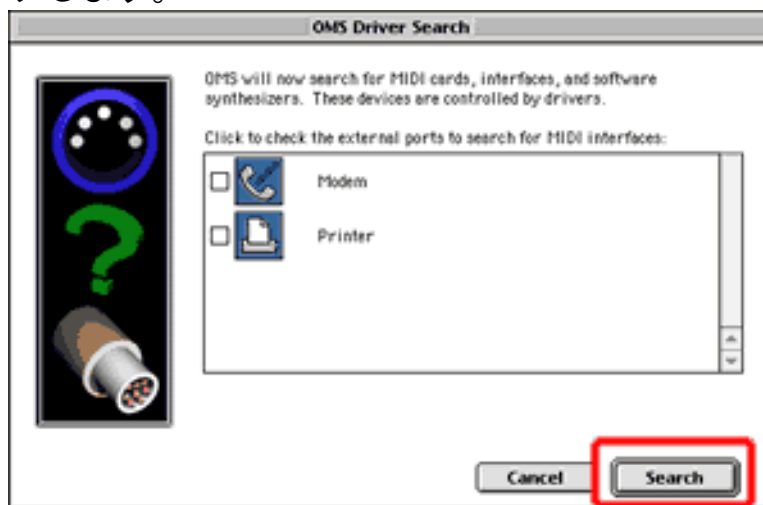
[3] シリアル

[4] シリアル+Interface
内蔵

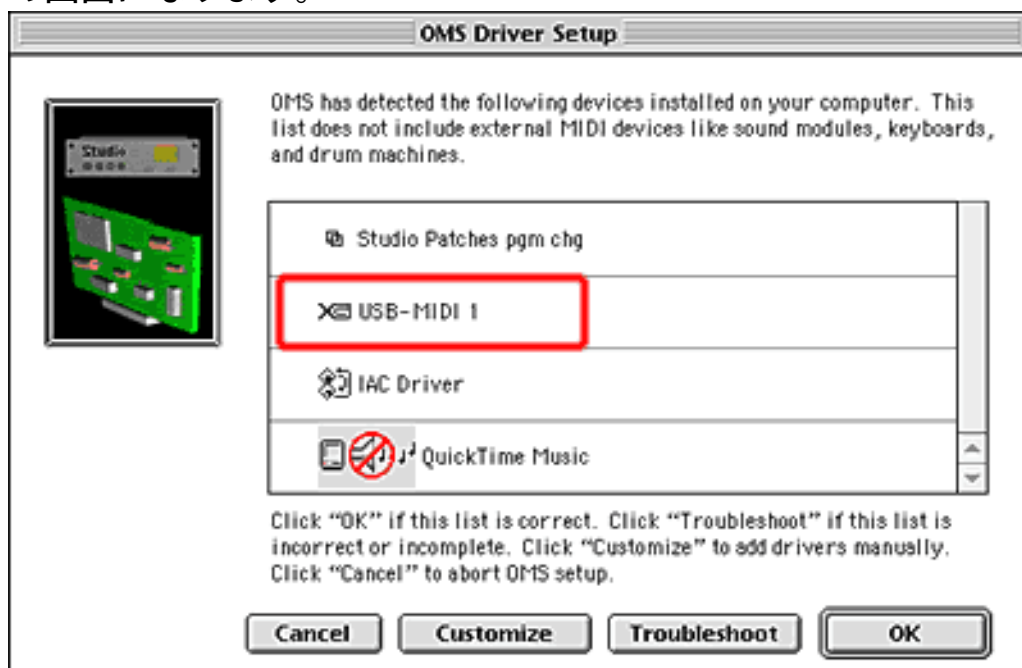
[5] シリアル+MIDIカー
ド



USBの場合はポートの選択はいらないので、検索[Search]をクリックします。



しばらく検索にいったあと、OMSドライバ設定[OMS Driver Setup]の画面になります。

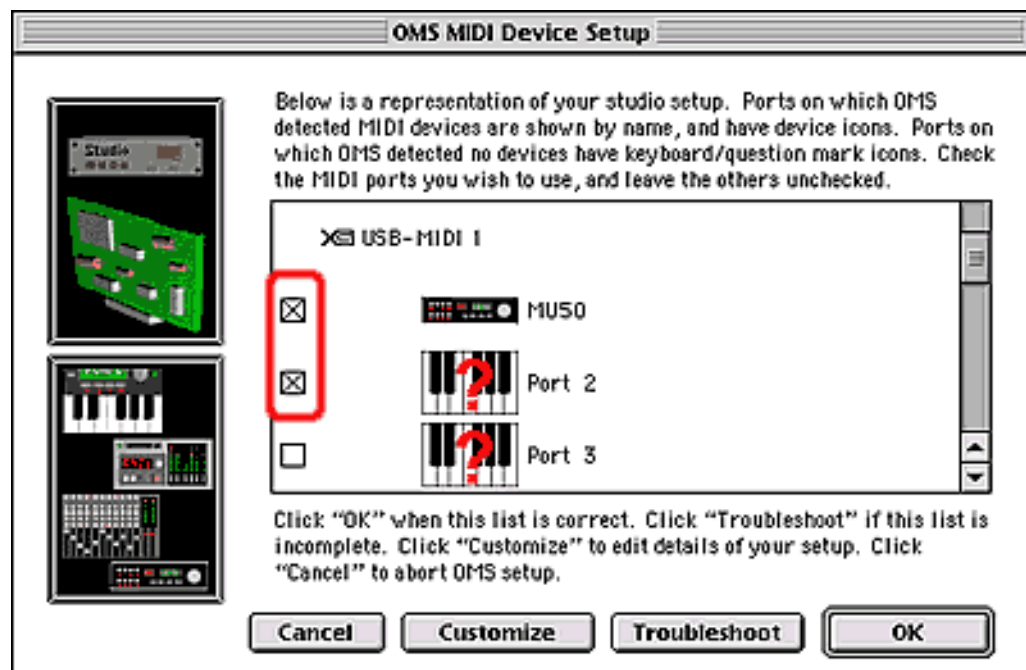


USB-MIDI 1というのが、インターフェースを認識していることになります。

さらにOKを押すと、今度はMIDIインターフェースに、何が接続さ

れているかを検索しにしてくれます。

OMS MIDI デバイス設定[OMS MIDI Device Setup]の画面になります。USB-MIDI 1が一番下に表示されているようでしたら、下にスクロールしてみましょう。

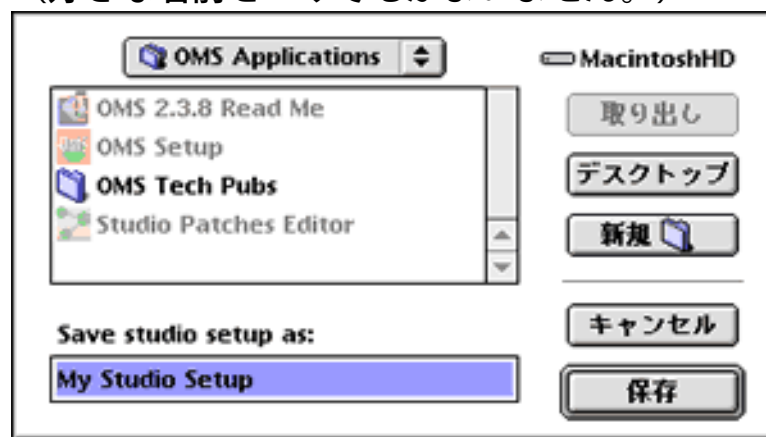


MU50についてはPort 1のところで認識していますが、CBX-K1は認識されていません。でもPort2に接続しているので、手動で設定することにします。

そのままOKをクリックしましょう。

スタジオセットアップを保存しておきましょう。

(好きな名前をつけてもかまいません。)



次へつづきます。

←前へ

次へ→



Copyright ©2000 YAMAHA CORPORATION.

All rights reserved.

【1】 OMSって？
【1-1】 ソフトシンセサイザーで鳴らす？
「S-YXG50」のインストール
OMSはインストールされている
OMSのセットアップ
「XGplayer for Mac V1.0」
「MidRadio」のインストール
「MidRadio」の設定
「MidRadio」で遊ぶ！
【1-2】 外部にMIDI音源をつないでみよう
<何をつなぐの？>
(1)USB端子
(2)モデム/プリンタポート
(3)その他
【2】 OMSソフトウェアのインストール
(1)インストールする前に
(2)インストールの方法
(3)インストール後のファイル
(4)アンインストールについて

【4】 実践！『スタジオセットアップ』
 <セットアップ例[3]> シリアルポートでの接続



さて、ここではシリアルポートのMacとインターフェース、MIDIキーボードを接続してのセットアップをやってみます。

ファイル[File]メニューから、新規セットアップ[New Studio Setup]を選択します。



モデムポートにシリアルケーブルを接続したので、「モデム [Modem]」にチェックをして、検索[Search]をクリックします。



【3】『スタジオセットアップ』を作ってみよう

(1)『スタジオセットアップ』

(2)AppleTalkのこと

(3)MIDIデバイスの検索

(4)接続を確認

【4】実践『スタジオセットアップ』

[1] USB+Interface内蔵

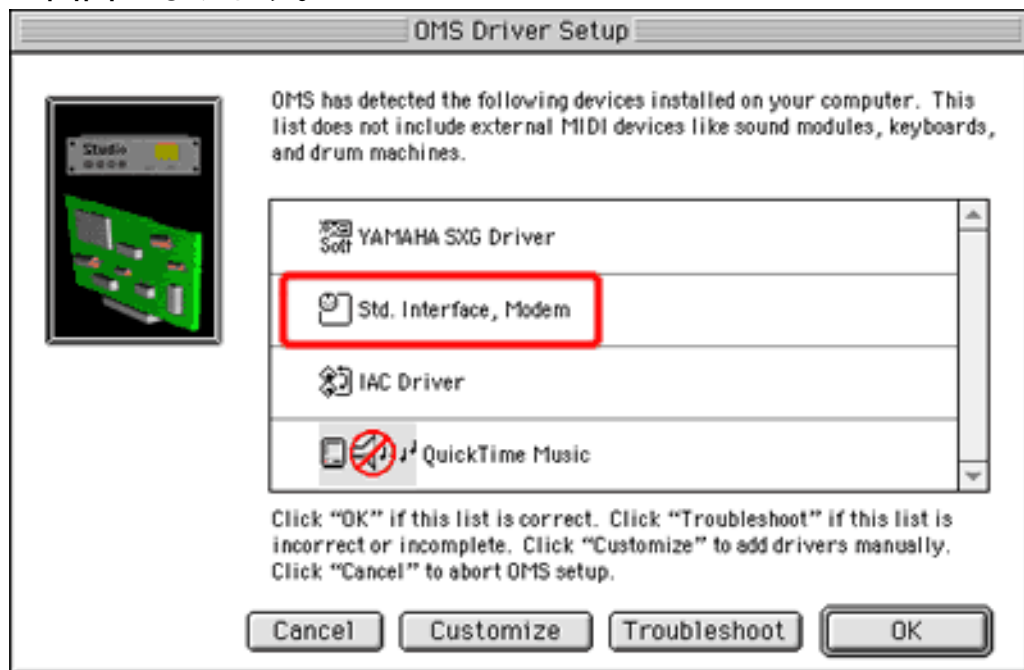
[2] USB

[3] シリアル

[4] シリアル+Interface内蔵

[5] シリアル+MIDIカード

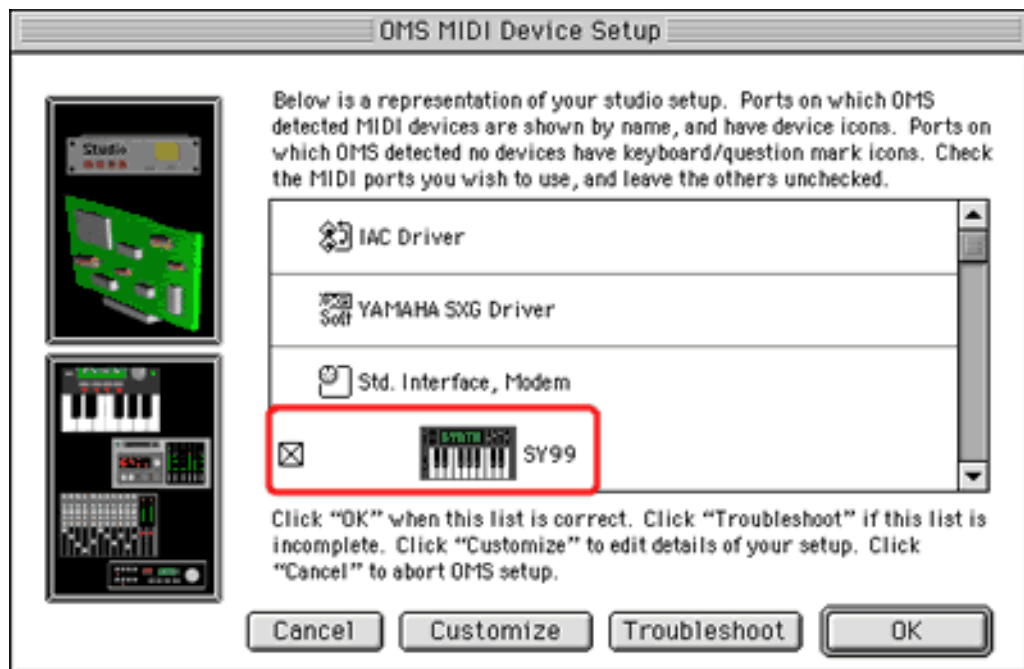
しばらく検索にいったあと、OMSドライバ設定[OMS Driver Setup]の画面になります。



ここではスタンダードMIDIインターフェースを認識しています。

さらにOKを押すと、今度はMIDIインターフェースに、何が接続されているかを検索しにしてくれます。

OMS MIDI デバイス設定[OMS MIDI Device Setup]の画面になります。



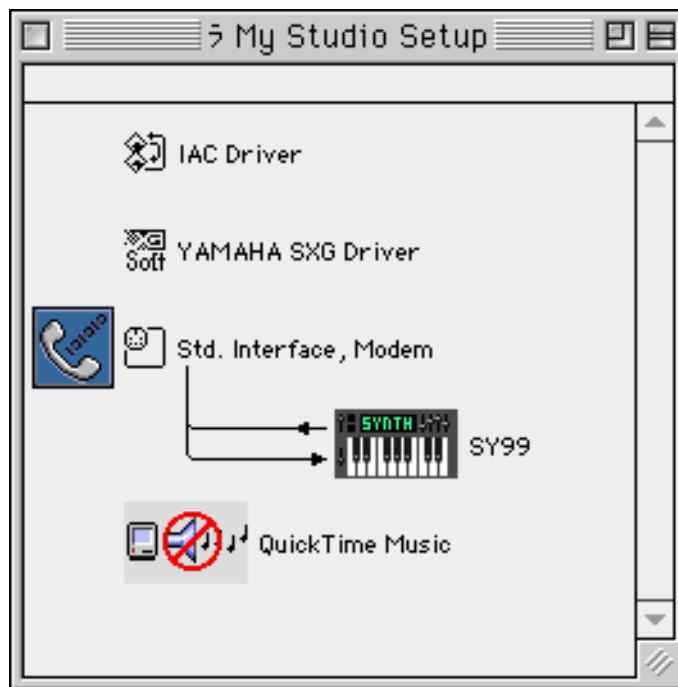
無事、SY99のキーボードを認識しています。

キーボードのアイコンの左のチェックボックスにチェックをして、OKをクリックしましょう。

スタジオセットアップを保存しておきましょう。
(好きな名前をつけてもかまいません。)



スタジオセットアップの図です。
左に大きく受話器のアイコンが、モデムポートにつながってます！
という表示です。



さて、音が出るかどうかのテストをしてみましょう！
スタジオ[Studio]メニューのテストスタジオ[Test Studio]を選択し
ましょう。



Test Studioがグレーになっていて、選択
できないことがあります。

その場合はファイル[File]メニューから有効
にして保存[Save and Make Current]を
選択してから、再度スタジオメニューを
開くと、テストスタジオを選択できると
思います。

ときには有効にする[Make Current]の時
もあります。

現在有効なセットアップの時はウィンドウのファイル名「My Studio Setup」のすぐ左に、

英語版の時は半角カタカナの「ラ」



日本語版の時はひし形「◇」

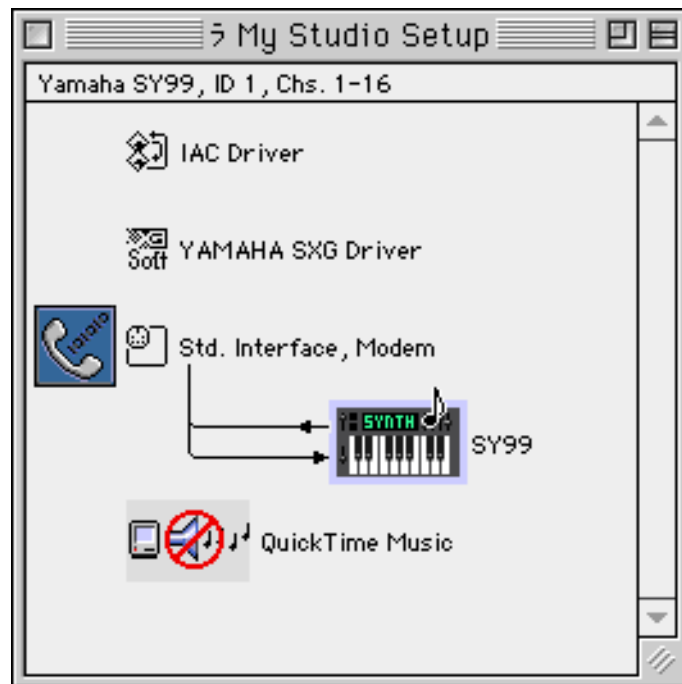


が表示されます。

音源のアイコンのところにマウスカーソルを移動させると、カーソルの形が「音符」の形に変わります。ここで1回クリックをしてみましょう。

音源から「ジャン！」と不協和音が聞こえれば、OKです。

また、キーボードを弾くとMacのスピーカーから、「MIDI Recieved！」と女性の声がします。
(初めて聞いたときは、ちょっとドキッとします…)



テストが終わったら、再度スタジオ[Studio]メニューの、テストスタジオ[Test Studio]を選択し、チェックをはずしておきましょう。

現在の状態を保存するためにファイル[File]メニューから保存[Save]を選択しておきましょう。

音が鳴らないときは…

MIDIインターフェースやMIDI音源の接続をまずチェックしましょう。

<MIDIに関すること>

インターフェースから音源へのMIDIのINとOUTは、間違いやすいところですが、IN同士をつなげていたりするとダメです。

インターフェースのOUTから、音源のINへ、音源のOUTから、インターフェースのINへ接続されているかを確認してみましょう。

また、途中から電源をいれたりしても鳴らないことがあります。MIDIインターフェースによっては、信号が届いているかどうかのランプがついているものもあるので、チェックしましょう。

<シリアルケーブルに関すること>

モデム・プリンタポートと接続する、シリアルケーブルにはストレートとクロスという2種類があります。まったく同じ形状ですが、インターフェースと接続するのは、クロスケーブルです。ストレートタイプはシリアルケーブルの分配器などに使うものなので、注意しましょう。

<ポートの選択>

モデムが内蔵されているPerformaシリーズの場合は、プリンタポートしか使えませんので注意しましょう。

PowerBookでは、モデムとプリンターが1つのポートになっていますが、内部的にOMSでの設定は、「モデム」にしましょう。

<その他>

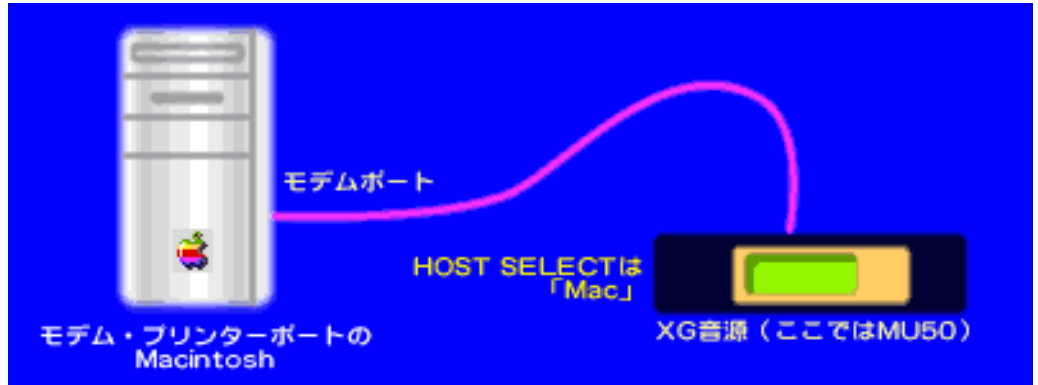
それでも、おかしい…さっきまで鳴っていたのに…ということでしたら、Macを再起動してみましょう。

[←前へ](#)

[次へ→](#)



【4】実践! 『スタジオセットアップ』
 <セットアップ例[4]> シリアルポートでの接続



さて、ここではシリアルポートのMacと、インターフェース内蔵のMUシリーズの音源を接続してのセットアップをやってみます。

ファイル[File]メニューから、新規セットアップ[New Studio Setup]を選択します。



モデムポートにシリアルケーブルを接続したので、「モデム [Modem]」にチェックをして、検索[Search]をクリックします。



しばらく検索にいったあと、OMSドライバ設定[OMS Driver Setup]の画面になります。

【1】OMSって?

【1-1】ソフトシンセサイザーで鳴らす?

「S-YXG50」のインストール

OMSはインストールされている

OMSのセットアップ

「XGplayer for Mac V1.0」

「MidRadio」のインストール

「MidRadio」の設定

「MidRadio」で遊ぶ!

【1-2】外部にMIDI音源をつないでみよう

<何をつなぐの?>

(1)USB端子

(2)モデム/プリンタポート

(3)その他

【2】OMSソフトウェアのインストール

(1)インストールする前に

(2)インストールの方法

(3)インストール後のファイル

(4)アンインストールについて

【3】『スタジオセットアップ』を作ってみよう

(1)『スタジオセットアップ』

(2)AppleTalkのこと

(3)MIDIデバイスの検索

(4)接続を確認

【4】実践『スタジオセットアップ』

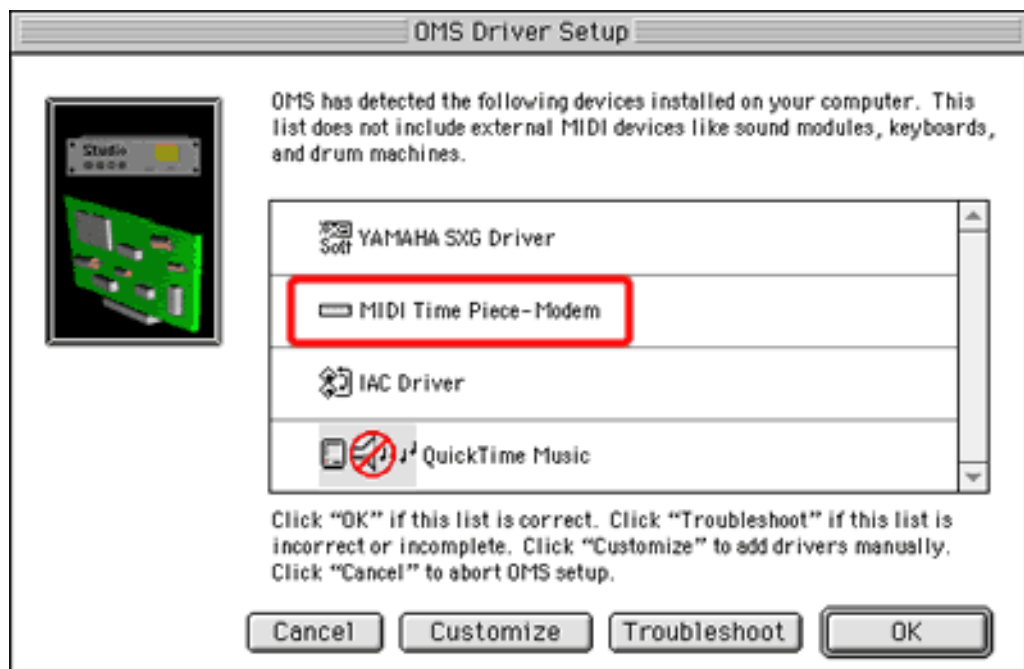
[1] USB+Interface内蔵

[2] USB

[3] シリアル

[4] シリアル+Interface内蔵

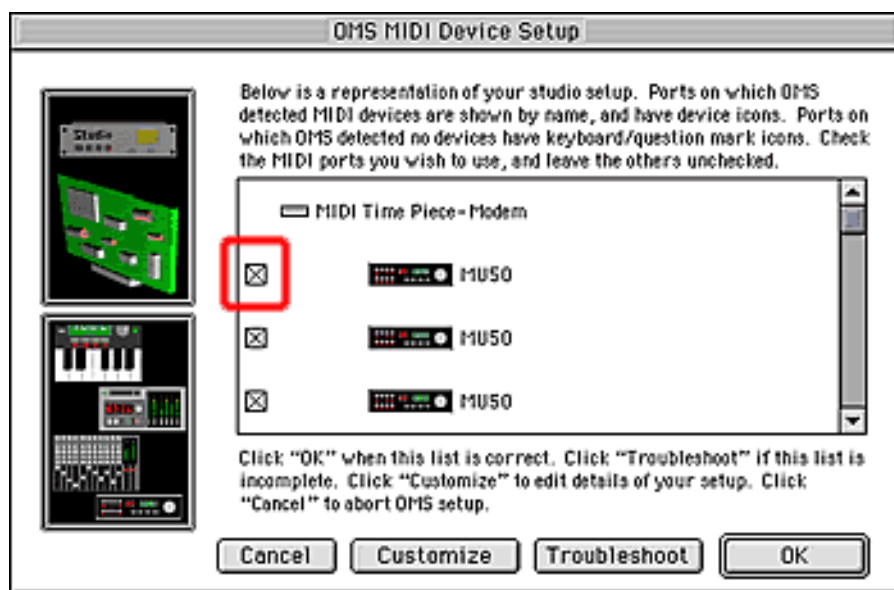
[5] シリアル+MIDIカード



ここではMU50の内蔵インターフェースをMIDI Time Pieceとして認識しています。(MU80やMU100などToHost端子を持ったものは同様です。)

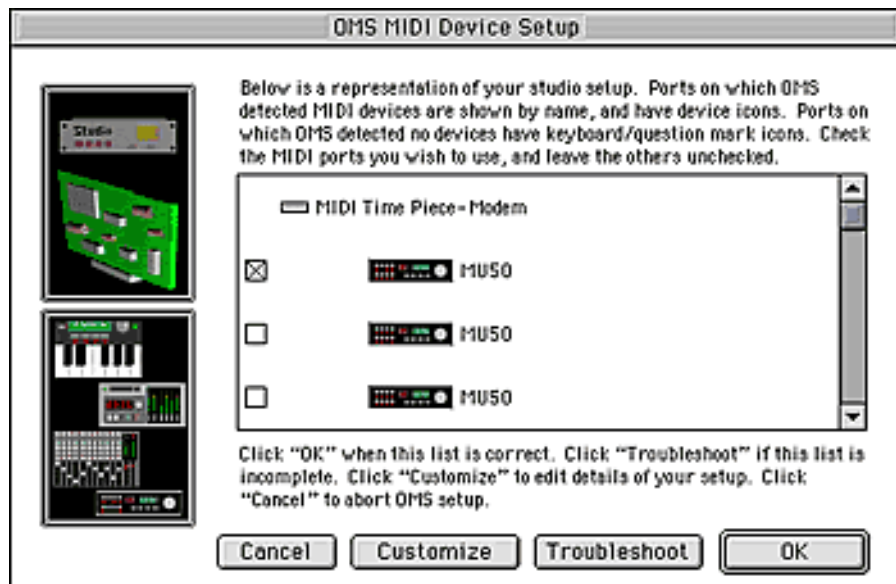
さらにOKを押すと、今度はMIDIインターフェースに、何が接続されているかを検索しにしてくれます。

OMS MIDI デバイス設定[OMS MIDI Device Setup]の画面になります。

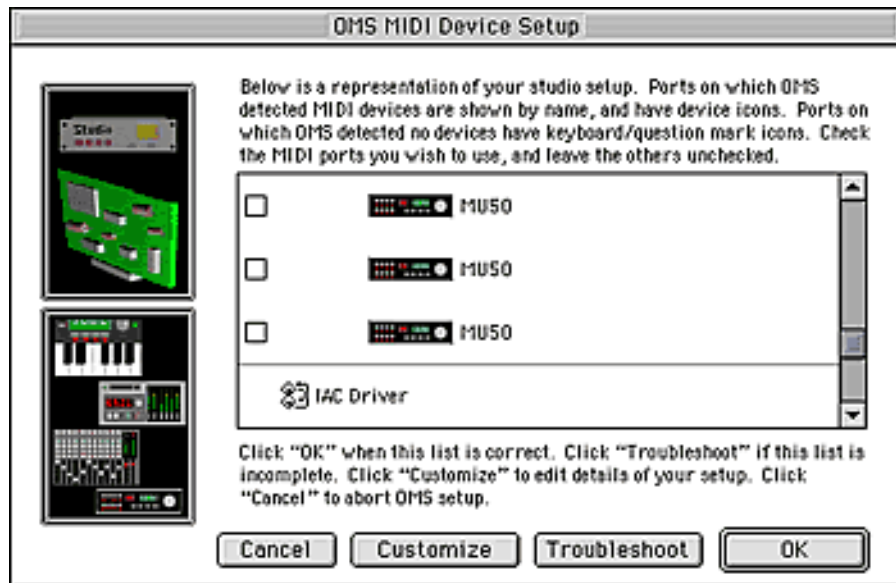


すると、MU50は認識していますが、本来MIDI Time Pieceは8ポートのインターフェースですので、8ポート全部にチェックがされてしまいます。

MU50では1ポート分しか使わないので(MU80,100では2ポート分)、一番上のチェックボックス以外をはずしておきましょう。



さらに画面をスクロールして、チェックをはずします。



できたら、OKをクリックです。
スタジオセットアップを保存しておきましょう。
(好きな名前をつけてもかまいません。)



次へ続きます。

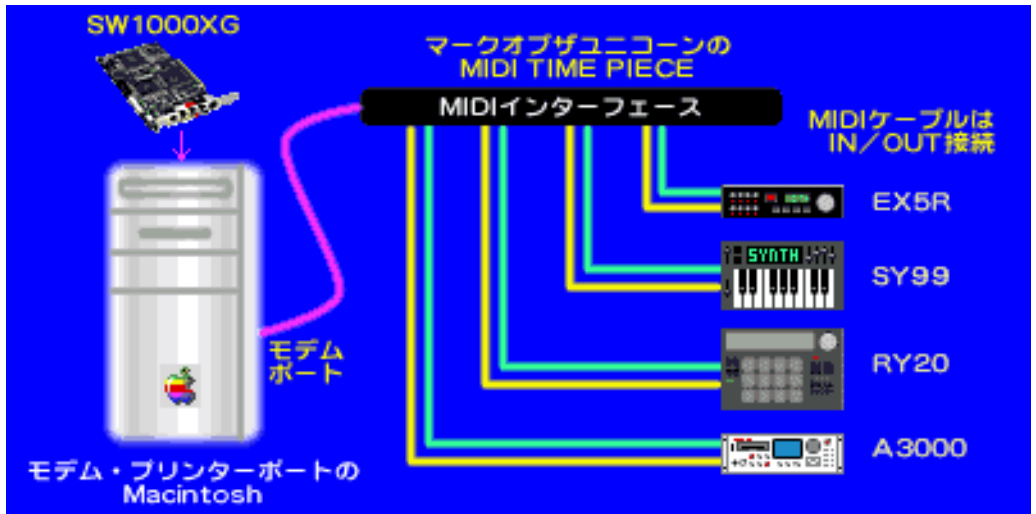
←前へ

次へ→



Copyright ©2000 YAMAHA CORPORATION.
All rights reserved.

【4】実践! 『スタジオセットアップ』
 <セットアップ例[5]> シリアルポート&MTP&MIDIカード



さて、ここではシリアルポートのMacにMIDIカード (SW1000XG) を差し込み、さらにモデムポートからMIDIインターフェース (MIDI Time Piece)、そしてシンセサイザーや音源、サンプラーなどを接続してのセットアップをやってみます。

(文中でMIDI Time PieceはMTPと略させていただきます。また、OMS2.3.3Jの日本語版を使っています。)

ファイル[File]メニューから、新規セットアップ[New Studio Setup]を選択します。



モデムポートにシリアルケーブルを接続したので、「モデム [Modem]」にチェックをして、検索[Search]をクリックします。

【1】 OMSって?
【1-1】 ソフトシンセサイザーで鳴らす?
「S-YXG50」のインストール
OMSはインストールされている
OMSのセットアップ
「XGplayer for Mac V1.0」
「MidRadio」のインストール
「MidRadio」の設定
「MidRadio」で遊ぶ!
【1-2】 外部にMIDI音源をつないでみよう
<何をつなぐの?>
(1)USB端子
(2)モデム/プリンタポート
(3)その他
【2】 OMSソフトウェアのインストール
(1)インストールする前に
(2)インストールの方法
(3)インストール後のファイル
(4)アンインストールについて

【3】『スタジオ セットアップ』を 作ってみよう

(1)『スタジオセットアッ
プ』

(2)AppleTalkのこと

(3)MIDIデバイスの検索

(4)接続を確認

【4】実践『スタジ オセットアップ』

[1] USB+Interface内蔵

[2] USB

[3] シリアル

[4] シリアル+Interface
内蔵

[5] シリアル+MIDIカー
ド



しばらく検索にいったあと、



検索が終了すると、OMSドライバ設定[OMS Driver Setup]の画面になり、見つかった機器やMIDIインターフェイスがこのように表示されます。



MTPがリスト内に表示されていれば、OMSから認識できています。

このリストに、MTPが表示されなかった場合は、[こちら](#)

さらにOKを押すと、今度はMTPに、何が接続されているかを検索しにしてくれます。



OMS MIDI デバイス設定[OMS MIDI Device Setup]の画面になります。



リスト内に接続した音源が、表示されていれば、OKボタンを押します。

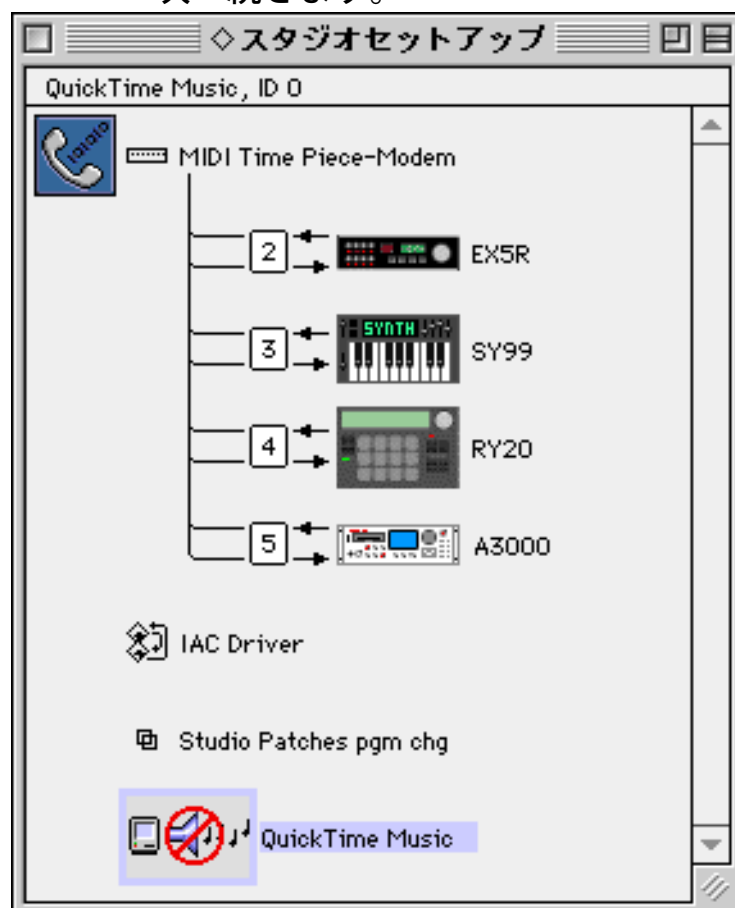
このリストに接続した音源が表示されない場合は、[こちら](#)

できたら、OKをクリックです。

ひとまず、スタジオセットアップを保存しておきましょう。

(好きな名前をつけてもかまいません。)

次へ続きます。





Copyright ©2000 YAMAHA CORPORATION.
All rights reserved.

【1】 OMSって？

【1-1】 ソフトシンセサイザーで鳴らす？

「S-YXG50」のインストール

OMSはインストールされている

OMSのセットアップ

「XGplayer for Mac V1.0」

「MidRadio」のインストール

「MidRadio」の設定

「MidRadio」で遊ぶ！

【1-2】 外部にMIDI音源をつないでみよう

<何をつなぐの？>

(1)USB端子

(2)モデム/プリンタポート

(3)その他

【2】 OMSソフトウェアのインストール

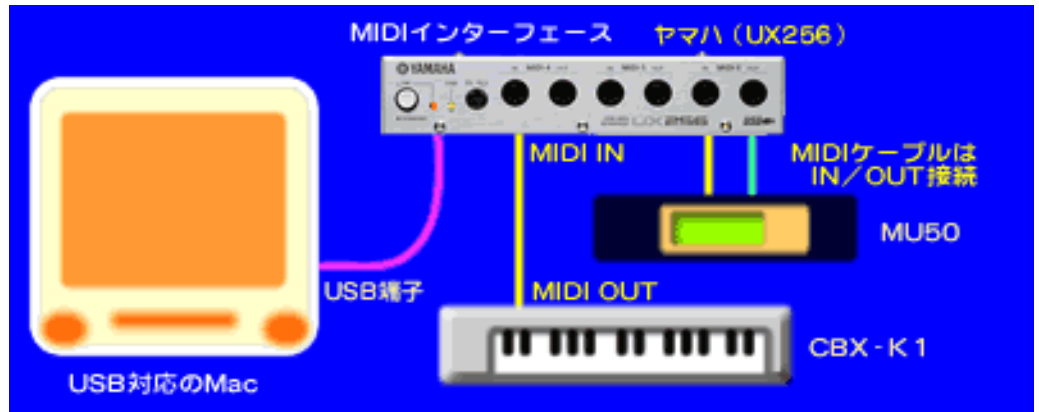
(1)インストールする前に

(2)インストールの方法

(3)インストール後のファイル

(4)アンインストールについて

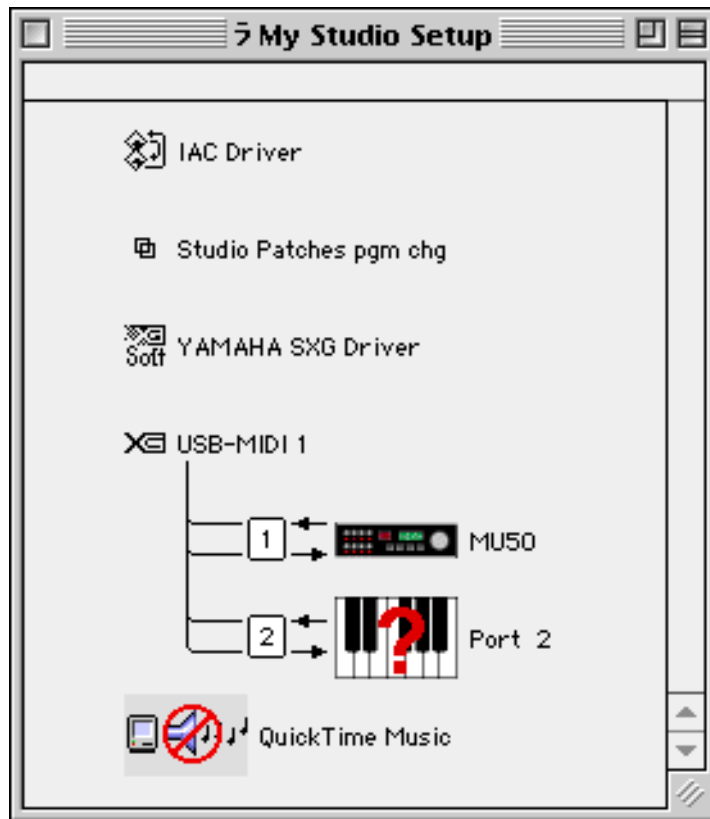
<セットアップ例[2]> USBでの接続 (つづき)



ここではUSBのMacとUSB端子を持ったMIDI音源を接続してのセットアップを行っています。

スタジオセットアップの図です。

Port 2の左側に？マークのアイコンがありますので、これをダブルクリックしてみましょう。



まず、メーカー[Manuf]からYAMAHAを選択します。次に、モデル[Model]からCBX-K1を選択します。

【3】『スタジオセットアップ』を作ってみよう

(1)『スタジオセットアップ』

(2)AppleTalkのこと

(3)MIDIデバイスの検索

(4)接続を確認

【4】実践『スタジオセットアップ』

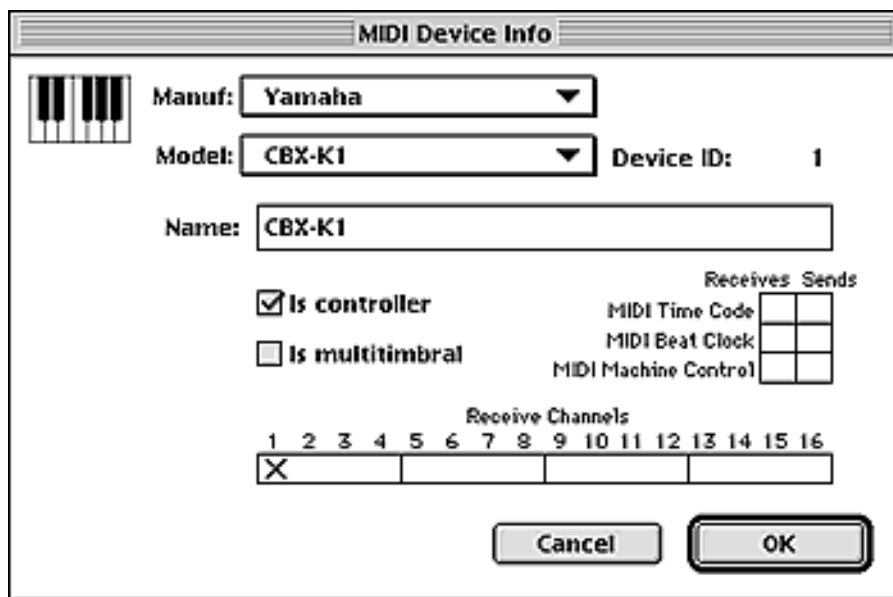
[1]USB+Interface内蔵

[2]USB

[3]シリアル

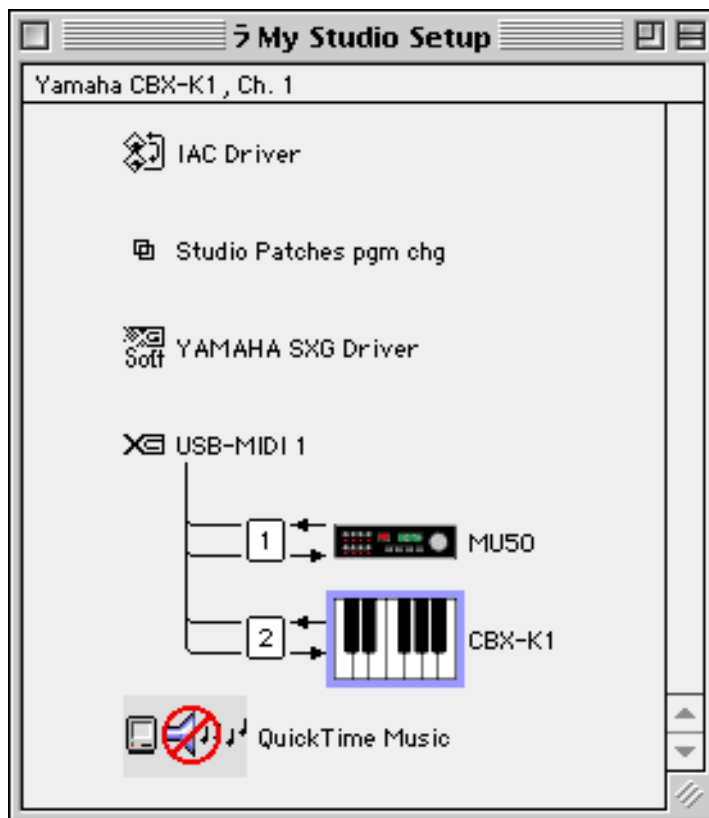
[4]シリアル+Interface内蔵

[5]シリアル+MIDIカード



コントローラー[Is controller]に、チェックがされていることを確認しましょう。(チェックされていないと、入力できないかもしれません。)

OKをクリックすると、スタジオセットアップの画面に戻り、CBX-K1が設定されています。



さて、音が出るかどうかのテストをしてみましょう！
スタジオ[Studio]メニューのテストスタジオ[Test Studio]を選択しましょう。

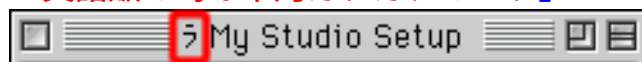


Test Studioがグレーになっていて、選択できないことがあります。

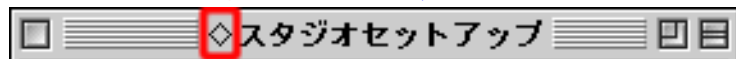
その場合はファイル[File]メニューから有効にして保存[Save and Make Current]を選択してから、再度スタジオメニューを開くと、テストスタジオを選択できると思います。
ときには有効にする[Make Current]の時もあります。

現在有効なセットアップの時はウィンドウのファイル名「My Studio Setup」のすぐ左に、

英語版の時は半角カタカナの「ラ」

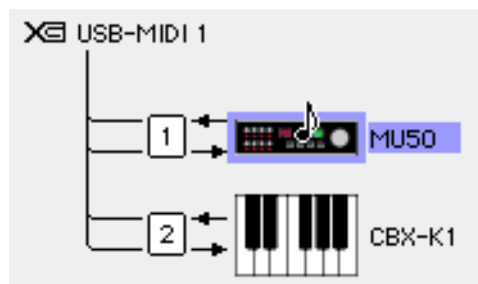


日本語版の時はひし形「◇」



が表示されます。

音源のアイコンのところにマウスカーソルを移動させると、カーソルの形が「音符」の形に変わります。ここで1回クリックをしてみましょう。
音源から「ジャン！」と不協和音が聞こえれば、OKです。



また、キーボードからの入力テストは、CBX-K1の鍵盤を実際に弾いてみて、Macのスピーカーから「MIDI Recieved!」と女性の声がすればOKです。

テストが終わったら、再度スタジオ[Studio]メニューの、テストスタジオ[Test Studio]を選択し、チェックをはずしておきましょう。

現在の状態を保存するためにファイル[File]メニューから保存[Save]を選択しておきましょう。

File	Edit	Studio	ヘルプ
New Studio Setup			⌘N
Open	⌘		O
Open Current Studio Setup			⌘U
Close			⌘W
Save			⌘S
Save As	⌘		
Make Current			⌘M
Page Setup	⌘		
Print			⌘P
Quit			⌘Q

インターフェイスが認識されないときは…

ヤマハのMIDIインターフェイスには付属のCD-ROMにUSB用ドライバのインストーラーが入っています。
OMSを先にインストールしてから、USB用のドライバをインストールしてください。

OMSの前にインターフェイスのドライバをインストールしてしまった場合は、もう一度ドライバをインストールし直してください。
(OMSフォルダへインストールすべきファイルが足りなくなってしまうため)

音が鳴らないときは…

MIDIインターフェイスやMIDI音源の接続、電源をまずチェックしましょう。

<音源側の設定に関すること>

MIDI音源のHOST SELECTは「MIDI」になっていますか？

<USBに関すること>

Mac側にUSB端子は2つ付いていますが、これはどちらに接続してもかまいません。

USBケーブルはMacの電源が入っている最中でも、抜き差しができる便利なものですが、できれば接続してから電源を入れた方がいいです。

それから、USB機器を複数持っていて、ハブ（HUB）という分配するものを使っている場合、うまくいかないことがあります。

まずはMIDIインターフェイスとMacを直接接続してみましょう。

ハブに接続してから、もう一度、始めからスタジオセットアップを作り直すと、うまくいくことがあります（不思議ですが本当です）。

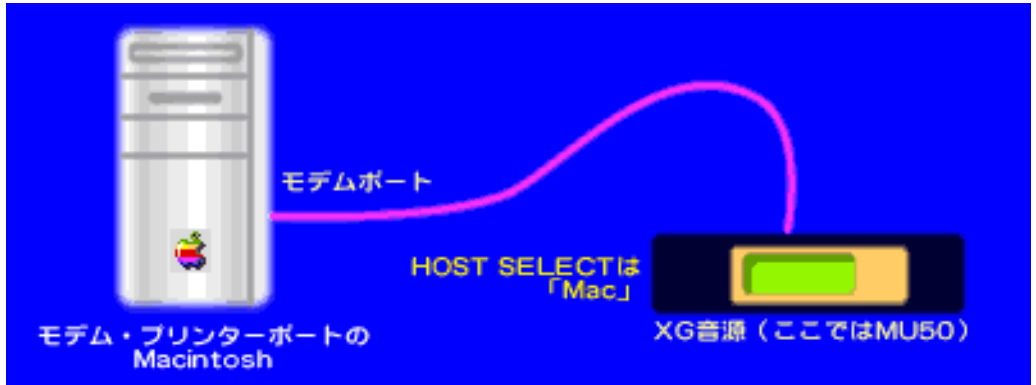
<その他>

それでも、おかしい…さっきまで鳴っていたのに…ということでしたら、Macを再起動してみましょう。



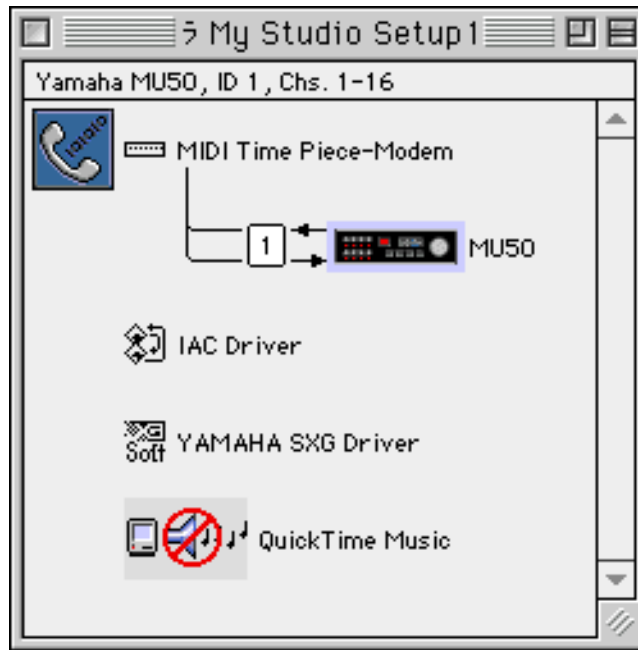
Copyright ©2000 YAMAHA CORPORATION.
All rights reserved.

【4】実践! 『スタジオセットアップ』
 <セットアップ例[4]> シリアルポートでの接続



引き続き、シリアルポートのMacと、インターフェース内蔵のMUシリーズの音源を接続してのセットアップをやっていきます。

スタジオセットアップの図です。
 左に大きく受話器のアイコンが、モデムポートにつながってます！
 という表示です。



ここでひとつチェックしておくことがあります。

【1】 OMSって？
【1-1】 ソフトシンセサイザーで鳴らす？
「S-YXG50」のインストール
OMSはインストールされている
OMSのセットアップ
「XGplayer for Mac V1.0」
「MidRadio」のインストール
「MidRadio」の設定
「MidRadio」で遊ぶ！
【1-2】 外部にMIDI音源をつないでみよう
<何をつなぐの？>
(1)USB端子
(2)モデム/プリンタポート
(3)その他
【2】 OMSソフトウェアのインストール
(1)インストールする前に
(2)インストールの方法
(3)インストール後のファイル
(4)アンインストールについて

【3】『スタジオセットアップ』を作ってみよう

(1)『スタジオセットアップ』

(2)AppleTalkのこと

(3)MIDIデバイスの検索

(4)接続を確認

【4】実践『スタジオオセットアップ』

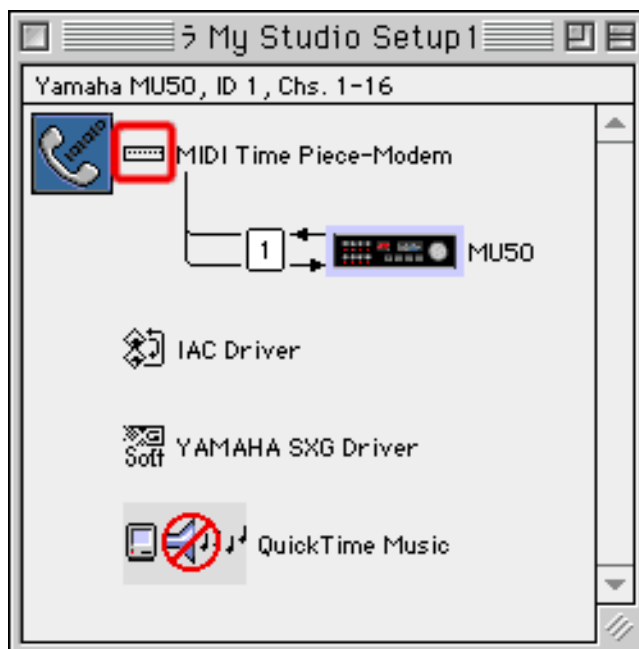
[1] USB+Interface内蔵

[2] USB

[3] シリアル

[4] シリアル+Interface内蔵

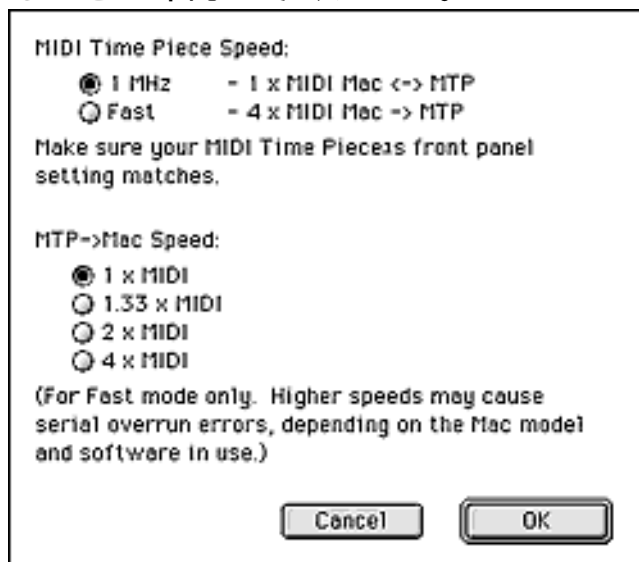
[5] シリアル+MIDIカード



MIDI Time Pieceのアイコンをダブルクリックしてみましょう。

スピードの設定画面になります。

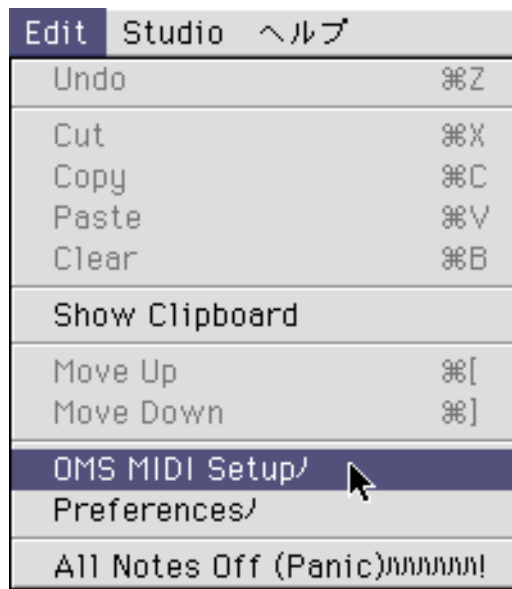
MU50の場合は上の「1 MHz」と「1 x MIDI」にチェックされていることを確認してください。



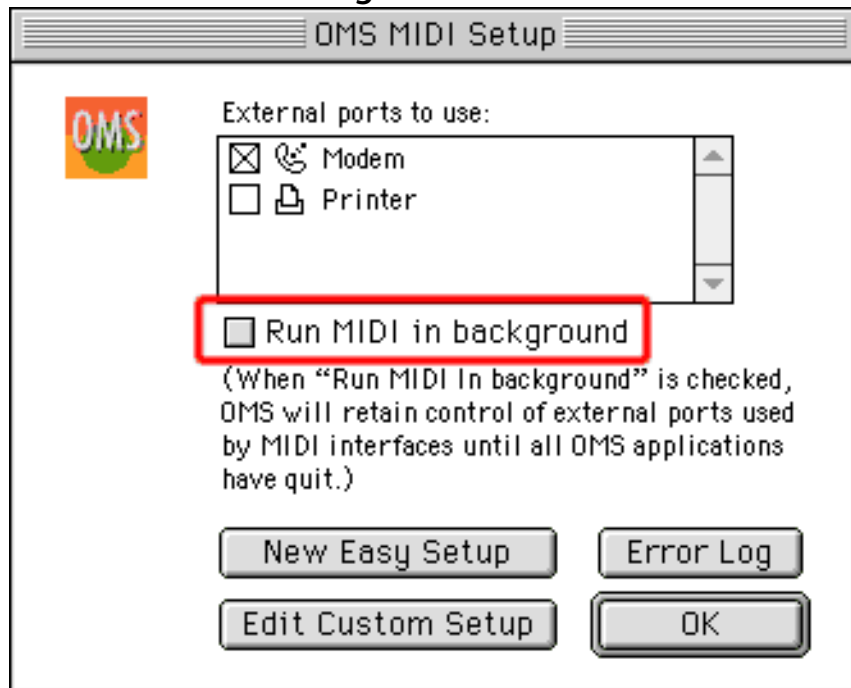
この設定は、シーケンスソフトの中でMIDIの設定をするとき、同じにしておかないと、音が出ないということになりますので、ちょっと覚えておくといいでしょう。

それから、もうひとつ！

編集[Edit]メニューからOMS MIDIセットアップ[OMS MIDI Setup]を選択してみましょう。



ここでもポートの選択ができたりするんですが、重要なのはその下の「Run MIDI in background」をチェックしないということです。



ソフトシンセサイザーを使用するとき以外は、はずしておきましょう。

さて、音が出るかどうかのテストをしてみましょう！
スタジオ[Studio]メニューのテストスタジオ[Test Studio]を選択しましょう。



Test Studioがグレーになっていて、選択できないことがあります。

その場合はファイル[File]メニューから有効にして保存[Save and Make Current]を選択してから、再度スタジオメニューを開くと、テストスタジオを選択できると思います。

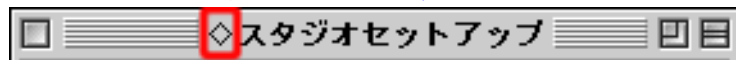
ときには有効にする[Make Current]の時もあります。

現在有効なセットアップの時はウィンドウのファイル名「My Studio Setup」のすぐ左に、

英語版の時は半角カタカナの「ラ」



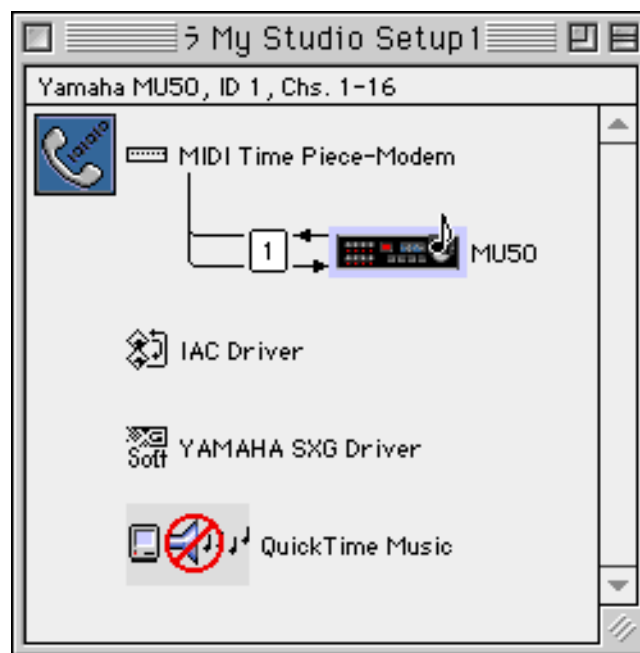
日本語版の時はひし形「◇」



が表示されます。

音源のアイコンのところにマウスカーソルを移動させると、カーソルの形が「音符」の形に変わります。ここで1回クリックをしてみましょう。

音源から「ジャン！」と不協和音が聞こえれば、OKです。



テストが終わったら、再度スタジオ[Studio]メニューの、テストスタジオ[Test Studio]を選択し、チェックをはずしておきましょう。

現在の状態を保存するためにファイル[File]メニューから保存[Save]

を選択しておきましょう。

音が鳴らないときは…

MIDIインターフェースやMIDI音源の接続をまずチェックしましょう。

音源のHOST SELECTは「Mac」になっていますか？

<MIDIに関すること>

インターフェースから音源へのMIDIのINとOUTは、間違いやすいところ。IN同士をつなげていたりするとダメです。

インターフェースのOUTから、音源のINへ、音源のOUTから、インターフェースのINへ接続されているかを確認してみましょう。

また、途中から電源をいれたりしても鳴らないことがあります。MIDIインターフェースによっては、信号が届いているかどうかのランプがついているものもあるので、チェックしましょう。

<シリアルケーブルに関すること>

モデム・プリンタポートと接続する、シリアルケーブルにはストレートとクロスという2種類があります。まったく同じ形状ですが、インターフェースと接続するのは、クロスケーブルです。ストレートタイプはシリアルケーブルの分配器などに使うものなので、注意しましょう。

ヤマハのシリアルケーブル「CCJ-MAC」(¥2,000)なら大丈夫！

<ポートの選択>

モデムが内蔵されているPerformaシリーズの場合は、プリンタポートしか使えませんので注意しましょう。

PowerBookでは、モデムとプリンターが1つのポートになっていますが、内部的にOMSでの設定は、「モデム」にしましょう。

<その他>

それでも、おかしい…さっきまで鳴っていたのに…ということでしたら、Macを再起動してみましょう。

[←前へ](#)

[次へ→](#)



■トラブルシューティング

<ドライバ検索で、インターフェースが表示されなかった場合>

トラブルシュート[Troubleshoot]ボタンを押してください。



OMSドライバ・トラブルシューティング

[OMS Driver Troubleshooting]ウィンドウが表示されます。再検索[Search Again]ボタンを押して再度検索を試みてください。



何度か試してもリストに、MTPが表示されないときは、ケーブルの結線や端子の接触不良などを確認してから試してください。

【1】OMSって？

【1-1】ソフトシンセサイザーで鳴らす？

「S-YXG50」のインストール

OMSはインストールされている

OMSのセットアップ

「XGplayer for Mac V1.0」

「MidRadio」のインストール

「MidRadio」の設定

「MidRadio」で遊ぶ！

【1-2】外部にMIDI音源をつないでみよう

<何をつなぐの？>

(1)USB端子

(2)モデム/プリンタポート

(3)その他

【2】OMSソフトウェアのインストール

(1)インストールする前に

(2)インストールの方法

(3)インストール後のファイル

(4)アンインストールについて

【3】『スタジオ セットアップ』を 作ってみよう

(1)『スタジオセットアップ』

(2)AppleTalkのこと

(3)MIDIデバイスの検索

(4)接続を確認

【4】実践『スタジ オセットアップ』

[1]USB+Interface内蔵

[2]USB

[3]シリアル

[4]シリアル+Interface
内蔵

[5]シリアル+MIDIカー
ド

<MIDIデバイス設定で、音源が表示されなかった場合>

トラブルシュート[Troubleshoot]ボタンを押してください。



OMS MIDIデバイス・トラブルシューティング
[OMS MIDI Device Troubleshooting]ウィンドウが表示されます。
再検索[Search Again]ボタンを押して再度検索を試みてください。



何度か試してもリストに、音源が表示されないときは、ケーブルの結線や端子の接触不良などを確認してから試してください。

考えられる要因として…

<その音源にOMSのデータベースが対応していない>

いさぎよく諦めて手動で設定します。

手動の方法は[こちら](#)

<MIDIケーブルに関すること>

音源とMTPがMIDIケーブルで相互に接続されていない。

音源のMIDI OutはちゃんとMTPのMIDI Inに接続されていますか？

MTPの同じポート番号が、MIDI In/Outで音源と接続されていますか？

<HOST SELECTに関すること>

Muシリーズ等の音源場合、TO HOSTスイッチはMIDIに設定されていますか？

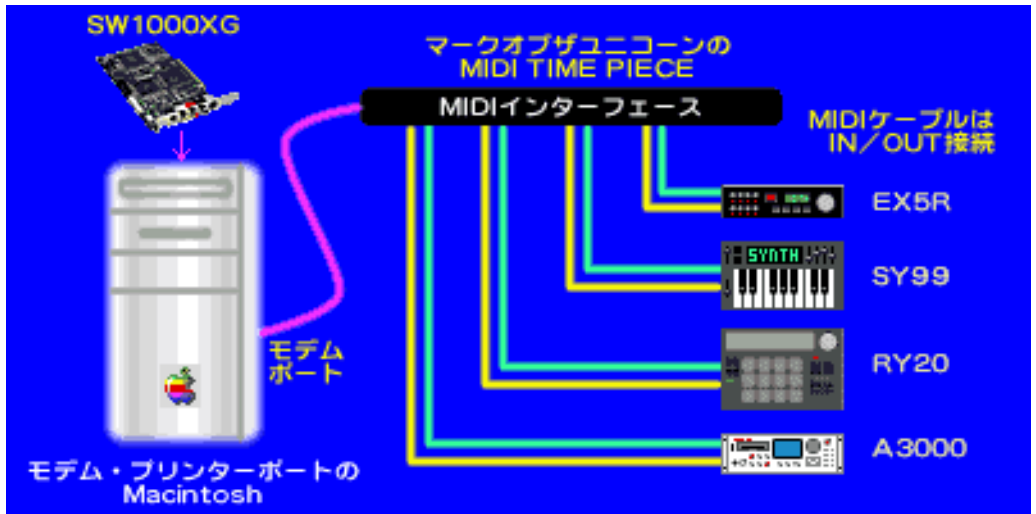
<音源の電源は入っていますか？>



Copyright ©2000 YAMAHA CORPORATION.

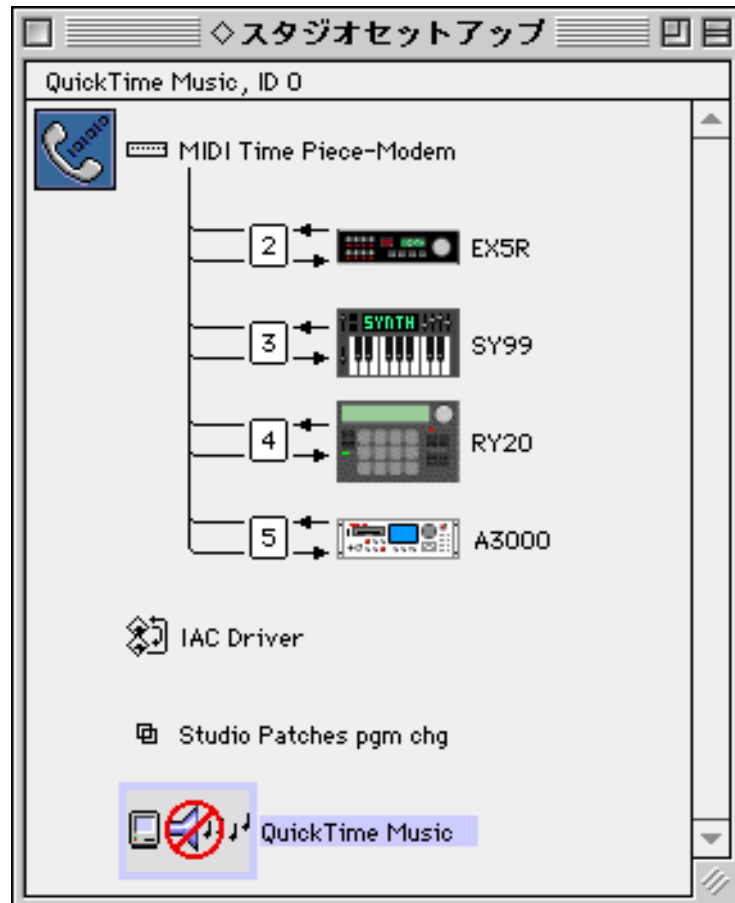
All rights reserved.

【4】実践! 『スタジオセットアップ』
 <セットアップ例[5]> シリアルポート&MTP&MIDIカード



引き続き、シリアルポートのMacにMIDIカード（SW1000XG）を差し込み、さらにモデムポートからMIDIインターフェース（MIDI Time Piece）、そしてシンセサイザーや音源、サンプラーなどを接続してのセットアップをしています。

スタジオセットアップの図です。
 左に大きく受話器のアイコンが、モデムポートにつながってます！
 という表示です。



さて、音が出るかどうかのテストをしてみましょう！
 スタジオ[Studio]メニューのテスト[Test Studio]を選択しましよ

【1】OMSって？

【1-1】ソフトシンセサイザーで鳴らす？

「S-YXG50」のインストール

OMSはインストールされている

OMSのセットアップ

「XGplayer for Mac V1.0」

「MidRadio」のインストール

「MidRadio」の設定

「MidRadio」で遊ぶ！

【1-2】外部にMIDI音源をつないでみよう

<何をつなぐの？>

(1)USB端子

(2)モデム/プリンタポート

(3)その他

【2】OMSソフトウェアのインストール

(1)インストールする前に

(2)インストールの方法

(3)インストール後のファイル

(4)アンインストールについて

【3】『スタジオ セットアップ』を 作ってみよう

(1)『スタジオセットアッ
プ』

(2)AppleTalkのこと

(3)MIDIデバイスの検索

(4)接続を確認

【4】実践『スタジ オセットアップ』

[1]USB+Interface内蔵

[2]USB

[3]シリアル

[4]シリアル+Interface
内蔵

[5]シリアル+MIDIカー
ド

う。



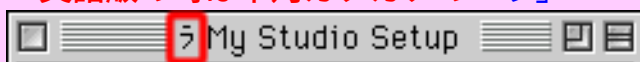
テストがグレーになっていて、選択できないことがあります。

その場合はファイル[File]メニューから有効にして保存[Save and Make Current]を選択してから、再度スタジオメニューを開くと、テストスタジオを選択できると思います。

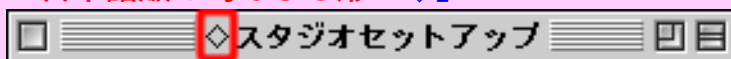
ときには有効にする[Make Current]の時もあります。

現在有効なセットアップの時はウィンドウのファイル名「My Studio Setup」のすぐ左に、

英語版の時は半角カタカナの「ラ」



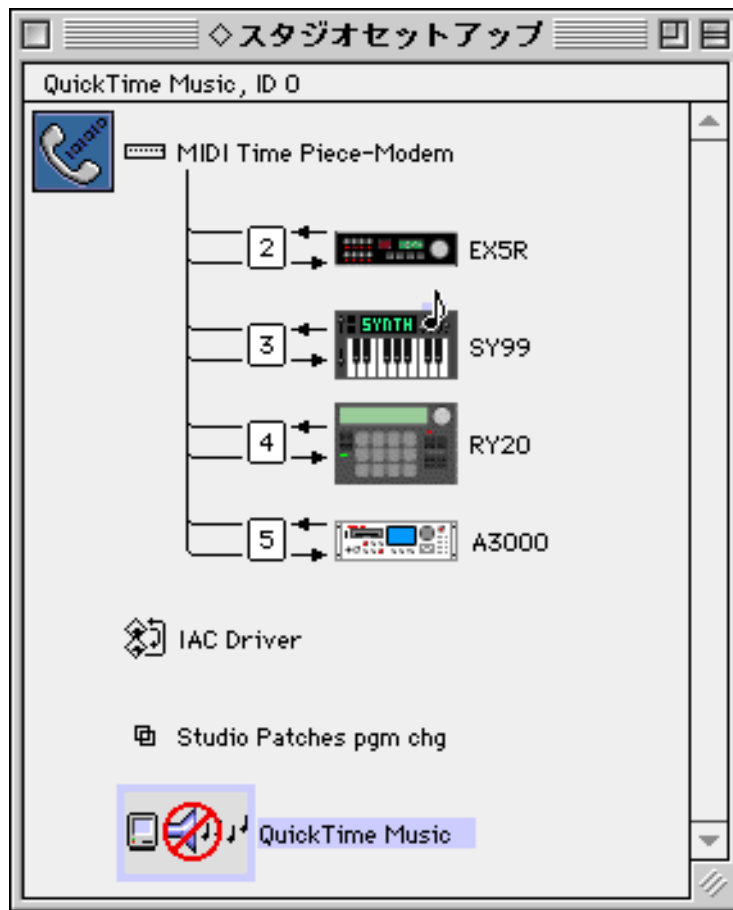
日本語版の時はひし形「◇」



が表示されます。

音源のアイコンのところにマウスカーソルを移動させると、カーソルの形が「音符」の形に変わります。ここで1回クリックをしてみましょう。

音源から「ジャン！」と不協和音が聞こえれば、OKです。



テストが終わったら、再度スタジオ[Studio]メニューの、テストスタジオ[Test Studio]を選択し、チェックをはずしておきましょう。

現在の状態を保存するためにファイル[File]メニューから保存[Save]を選択しておきましょう。

<OMSにSW1000XGを認識させよう>

OMSインストール後に、SW1000XGをインストールしましょう。インストールの順番が逆だと、OMSからSW1000XGが認識できません。

OMSが認識するためには、「機能拡張にあるOMSフォルダー」内にSW1000XG Driverが入っていなければなりません。そのためは、SW1000XG Driverがインストールされる前に、OMSがインストールされている必要があります。

←前へ

